

第2章 こどもと子育てを取り巻く環境

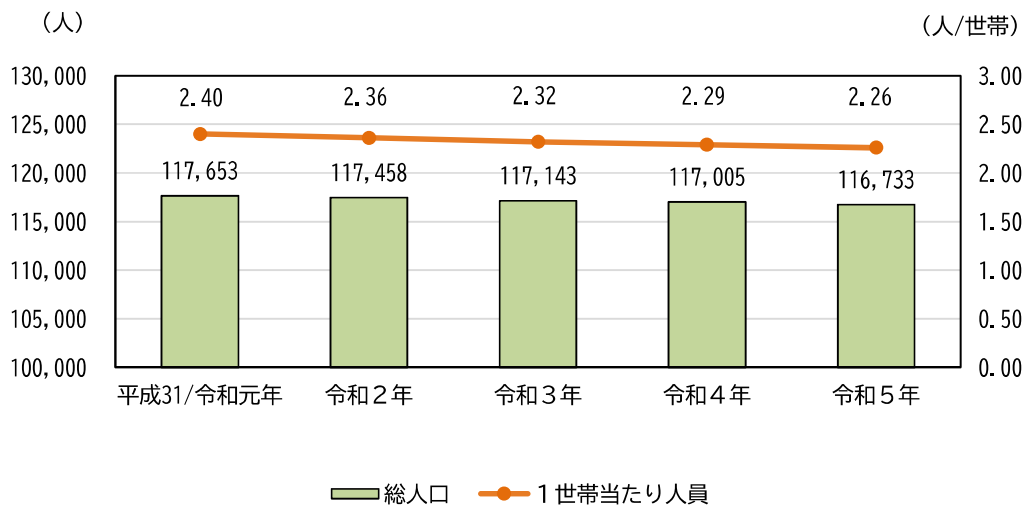
1 少子化の現状

(1) 人口の推移

本市の総人口は減少傾向で推移しており、令和5(2023)年1月1日現在で116,733人と平成31(2019)年と比較して9,200人の減少となっています。

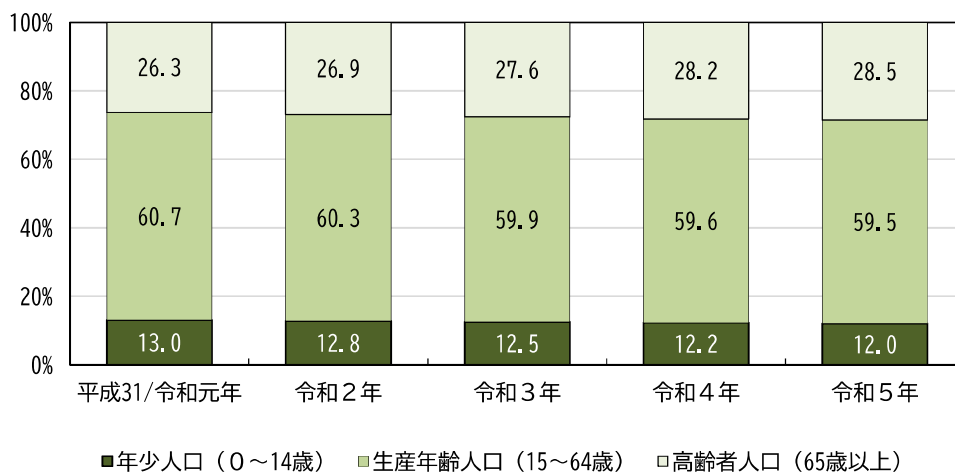
また、年齢3区分の人口構成をみると、高齢者人口(65歳以上)は増加していますが、年少人口(0～14歳)は減少傾向で推移しており、令和5(2023)年1月1日現在で年少人口は13,987人(12.0%)と平成31(2019)年の15,332人と比較して1.0ポイントの減少となっています。

総人口と1世帯当たり人員



資料：栃木県住民基本台帳年報（各年1月1日現在）

年齢3区分の人口構成



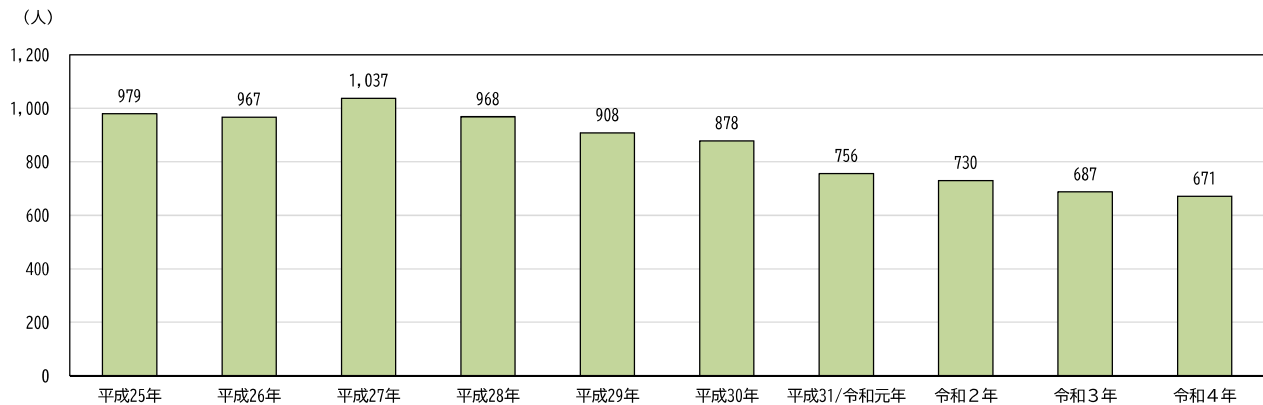
資料：栃木県住民基本台帳年報（各年1月1日現在）

(2) 出生の動向

本市の出生数は、1,000人前後で推移していましたが、平成27(2015)年以降は減少傾向にあり、令和4(2022)年で671人となっています。

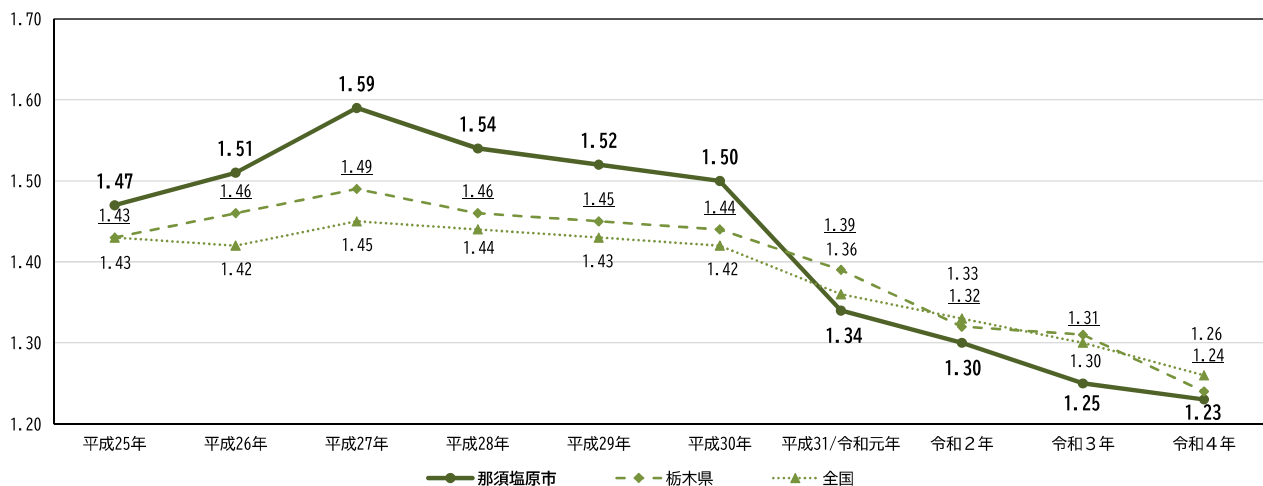
また、合計特殊出生率※は、栃木県及び全国より上回った状況で推移していましたが、平成31(2019)年に急激に低下し栃木県及び全国を下回り、令和4(2022)年で1.23となっています。

出生数



資料：栃木県保健統計年報

合計特殊出生率



資料：栃木県保健統計年報

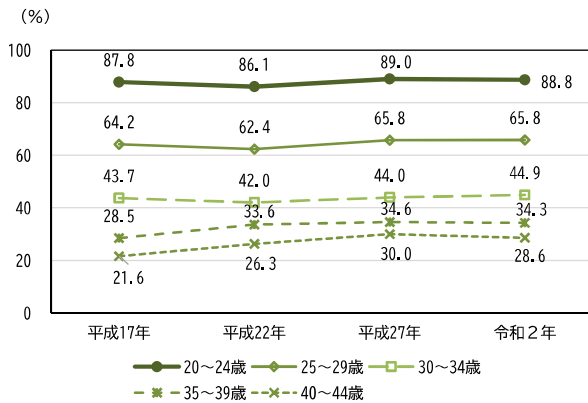
※合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものであり、1人の女性が一生に産むこどもの数とされています。

(3) 婚姻の動向

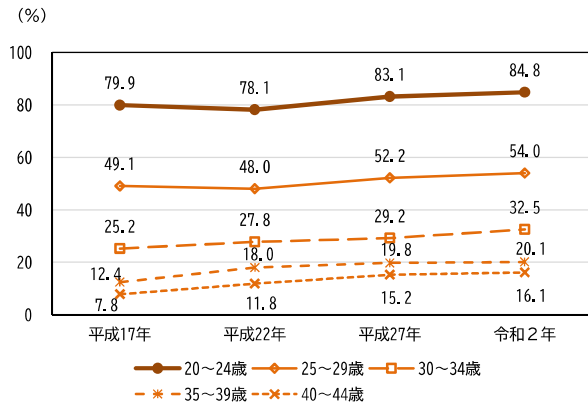
男女別に20歳から44歳までの未婚率を5歳ごとの階級に分けてみると、全ての年齢において男女とも未婚率は上昇傾向にあり、未婚化が進行していることが分かります。

また、離婚件数及び離婚率は増減を繰り返しており、令和4(2022)年で離婚件数は200件、離婚率は1.74(人口千対)となっています。

男性未婚率

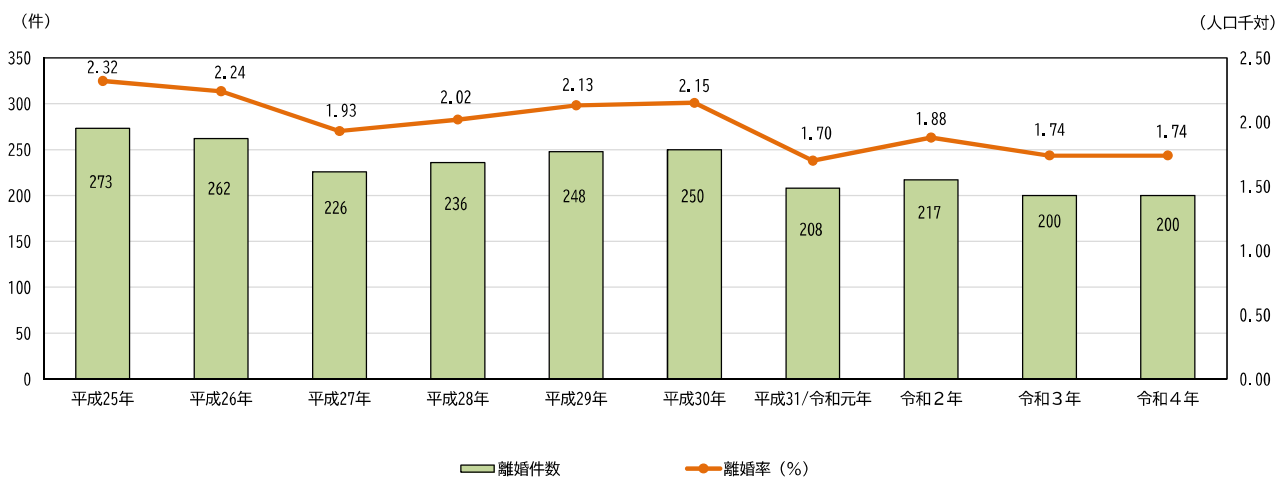


女性未婚率



資料：国勢調査

離婚件数と離婚率



資料：栃木県保健統計年報

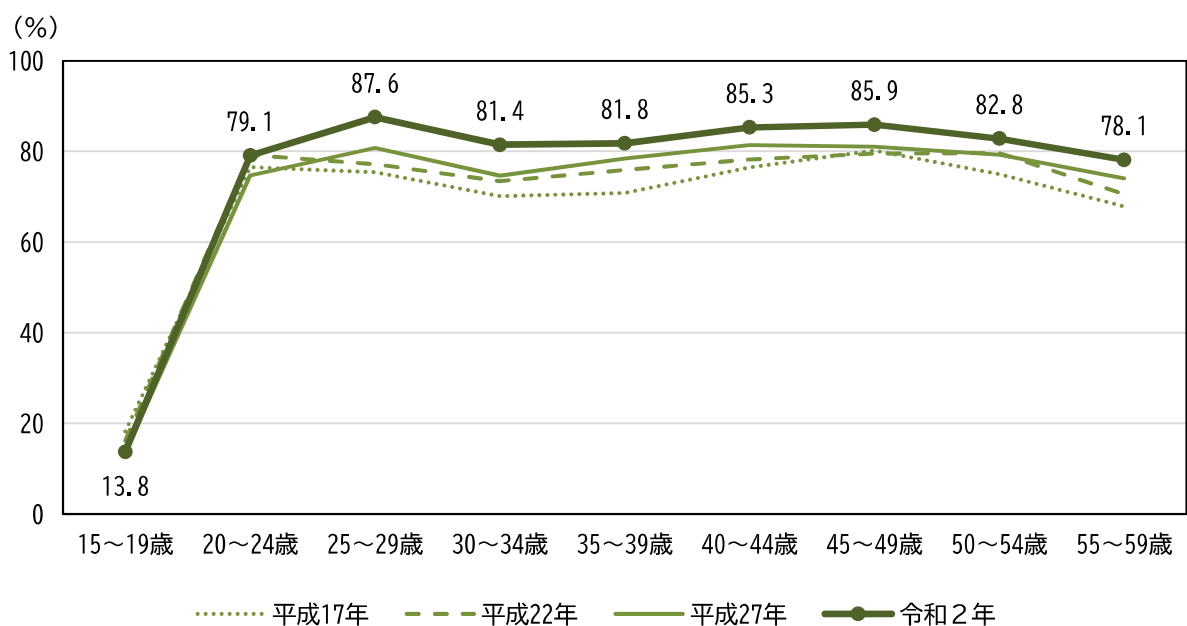
(4) 女性の就業状況

女性の労働力率※をみると、女性は20歳代前半で就職し、その後結婚や出産により一時離職し、その後再び就職することから「M字カーブ」を描くことが広く知られています。このM字カーブについては、女性の労働力率の変化に関する全国的な傾向として、未婚化や晩婚化が進んでいること、結婚時の雇用継続が増加していること、育児休業取得率が上昇していることなどから、その谷が徐々に浅くなっています。

本市の女性の労働力率は、5歳階級別に平成17(2005)年と令和2(2020)年と比較すると、M字カーブが緩やかになっていることが分かります。

※労働力率：15歳以上人口（労働力状態「不詳」を除く。）に占める労働力人口の割合のことをいいます。

女性の年齢別労働力率



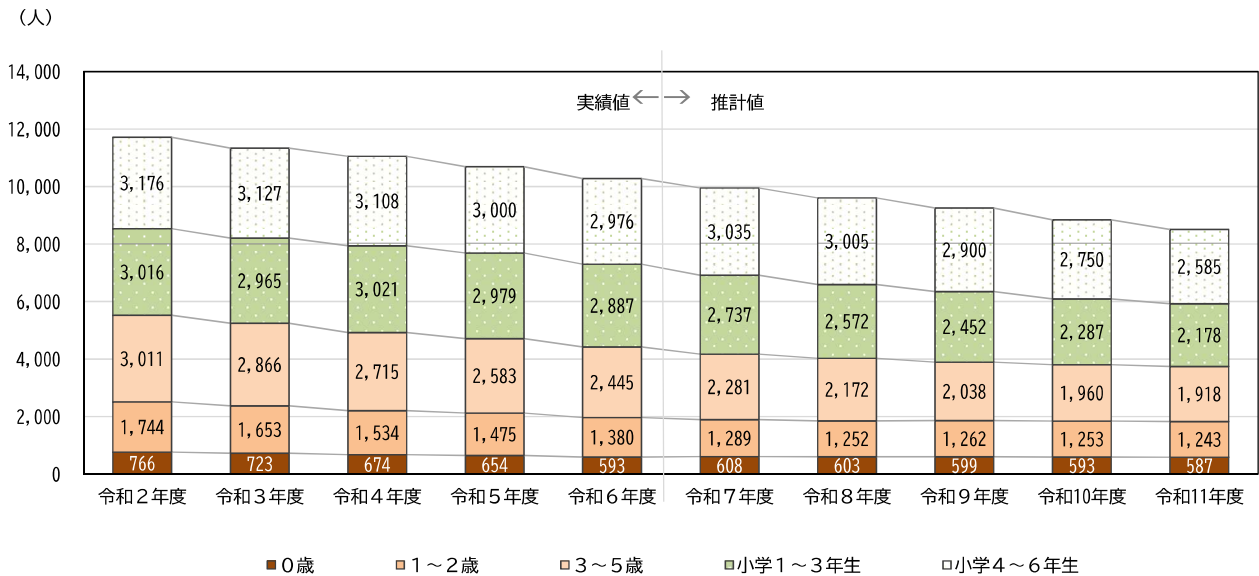
資料：国勢調査

(5) 人口推計

本市の未就学児及び小学生の推計人口をみると、未就学児及び小学生ともに減少傾向で推移すると予想されます。

また、令和6(2024)年で593人であった0歳人口が令和11(2029)年には587人と、5年で6人減少することが見込まれています。

未就学児及び小学生の推計人口



資料：コーホート変化率法による人口推計（各年度4月1日）

2 子育て支援サービスなどの現状

(1)-1 認定こども園・幼稚園・保育園などの現状

本市の教育・保育施設^{※1}、幼稚園の状況ですが、令和2(2020)年と比較して施設数は認定こども園及び小規模保育事業所は増加、公立保育園及び家庭的保育事業所は減少しています。利用定員数及び入園児童数は3号0歳児を除きそれぞれ減少しています。

① 施設数

項目		単位	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
認定こども園		箇所	10	10	10	10	11
幼稚園		箇所	1	1	1	1	1
保育園	公立	箇所	10	10	10	10	8
	私立	箇所	13	13	13	13	13
小規模保育事業所		箇所	7	9	9	9	9
家庭的保育事業所		箇所	1	0	0	0	0

資料：保育課（各年4月1日現在）

② 利用定員数

項目		単位	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
教育	1号 3～5歳	人	1,068	1,038	958	927	863
	2号 3～5歳	人	1,927	1,935	1,861	1,907	1,864
保育	3号 0歳	人	266	277	291	294	291
	3号 1・2歳	人	1,055	1,070	1,074	1,069	1,045
合計		人	4,316	4,320	4,184	4,197	4,063

※令和5年度からは幼稚園を含む。

資料：保育課（各年4月1日現在）

③ 入園児童数

項目		単位	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
教育	1号 3～5歳	人	926	807	722	737	671
	2号 3～5歳	人	1,887	1,895	1,840	1,789	1,732
保育	3号 0歳	人	94	75	90	91	91
	3号 1・2歳	人	1,028	1,021	993	1,002	945
合計		人	3,935	3,798	3,645	3,619	3,439

※市内在住の市内保育園在園児（通常入所児童）と市外保育園在園児（広域委託児童）の合計（実市民入園児童数）。

資料：保育課（各年4月1日現在）広域受託を含む。

※1 教育・保育施設…子ども・子育て支援法では、認定こども園、幼稚園、保育園を合わせて「教育・保育施設」としていますが、本計画では認定こども園、幼稚園、保育園、地域型保育事業所^{※2}のことを合わせて「教育・保育施設」としています。

※2 地域型保育事業所…小規模保育事業所及び家庭的保育事業所のこと。

(1)-2 待機児童などの状況

①入園待ち児童数（保留児童※）

本市では、入園に当たっては、児童福祉法で規定する「保育を必要とする」状態を点数化した上で審査し、限られた利用定員の中で優先順位を定めて入園の可否を決定していますが、その審査で入園ができなかった児童については入園待ち児童となります。

令和2(2020)年からの入園待ち児童については、各年で増減を繰り返していますが減少傾向にあります。

項目	単位	令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		令和6年
		4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月
0歳児	人	32	82	7	43	11	56	12	59	7
1・2歳児	人	59	44	28	22	22	26	24	35	18
3～5歳児	人	9	6	1	1	2	1	5	5	1
合計	人	100	132	36	66	35	83	41	99	26

資料：保育課（各年月1日現在）

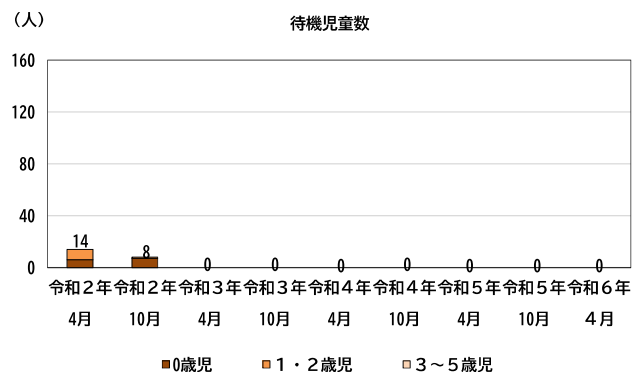
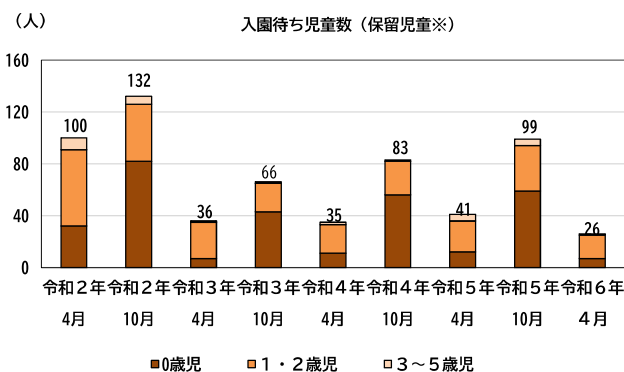
※入園待ち児童は保留児童という名称を使用することもあります。本計画では第2期計画との継続性から入園待ち児童という名称を使用しています。

②待機児童数

近年の待機児童（入園待ち児童のうち、国基準で定める児童）数の推移ですが、一番多いときで令和2(2020)年4月1日の14人という状況でしたが、令和3(2021)年4月1日以降0人で推移しています。

項目	単位	令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		令和6年
		4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月
0歳児	人	6	7	0	0	0	0	0	0	0
1・2歳児	人	8	1	0	0	0	0	0	0	0
3～5歳児	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	人	14	8	0	0	0	0	0	0	0

資料：保育課（各年月1日現在）



（２）子育て支援サービスの状況

①延長保育事業の状況

延長保育事業とは、保育認定を受けたこどもについて、通常の利用以外の日又は時間において、教育・保育施設において保育を実施する事業であり、令和５（２０２３）年度では２４箇所で４１６人の利用となっています。

	単位	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
年間利用者数（実人数）	人	482	446	479	416
実施施設数	箇所	23	23	24	24

資料：保育課

②病児・病後児保育事業の状況

病児・病後児保育事業とは、病院や教育・保育施設などに付設された専用スペースなどにおいて、看護師などが一時的に保育を実施する事業であり、令和５（２０２３）年度は、１箇所の病児保育で９人、１箇所の病後児保育で４２７人の利用となっています。

病児保育	単位	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
年間利用者数（延人数）	人	2	2	14	9
実施施設数	箇所	1	1	1	1

病後児保育	単位	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
年間利用者数（延人数）	人	89	278	330	427
実施施設数	箇所	2	2	1	1

資料：保育課

③利用者支援事業の状況

利用者支援事業とは、こども又はその保護者の身近な場所で、教育・保育施設などや地域の子育て支援事業などの情報提供及び必要に応じ相談・助言などを行うとともに、関係機関との連絡調整などを実施する事業であり、令和５（２０２３）年度では、２箇所の基本型（子育てコンシェルジュ）に２人、１箇所の特定型（保育コンシェルジュ）に１人、１箇所の母子保健型に１９人を配置しています。

基本型（子育てコンシェルジュ）	単位	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
配置人数	人	2	2	2	2
実施施設数	箇所	2	2	2	2

特定型（保育コンシェルジュ）	単位	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
配置人数	人	1	1	1	1
実施施設数	箇所	1	1	1	1
母子保健型	単位	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
配置人数	人	21	14	21	19
実施施設数	箇所	2	2	2	1

資料：子育て支援課、子育て相談課

④地域子育て支援拠点事業の状況

地域子育て支援拠点事業とは、乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言、その他の援助を行う事業であり、令和5(2023)年度では9箇所あり、年間利用者数(延べ人数)はこどもが8,010人、大人が6,684人となっています。

		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年間利用者数 (延べ人数)	こども	人	4,983	5,505	6,502	8,010
	大人	人	4,406	4,738	5,626	6,684
実施施設数		箇所	9	9	9	9

資料：子育てサポートステーション、保育課

⑤ファミリー・サポート・センターの状況

ファミリー・サポート・センター事業(子育て援助活動支援事業)とは、乳幼児や小学生などの児童を有する子育て中の保護者を利用会員、児童の預かりなどの援助を行うことを希望する者をサポート会員とし、利用会員とサポート会員との相互援助活動に関する連絡・調整を行う事業であり、令和5(2023)年度では396人(利用会員：289人、サポート会員：82人、両方会員(※)：25人)の会員で2,004人(未就学児：942人、就学児：1,062人)の利用となっています。

		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年間利用者数	未就学児	人	926	1,015	560	942
	就学児	人	912	1,492	1,509	1,062
	合計	人	1,838	2,507	2,069	2,004
会員数	利用会員	人	235	213	259	289
	サポート会員	人	93	77	87	82
	両方会員	人	30	25	22	25
	合計	人	358	315	368	396

資料：子育て支援課

※両方会員とは、利用会員とサポート会員のどちらにも登録している会員のこと。

⑥放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）の状況

放課後児童クラブとは、労働などにより保護者が日中に家庭にいない小学生に対し、授業の終了後などに適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業であり、令和6（2024）年度は26箇所の公設民営で1,598人（低学年：952人、高学年646人）、24箇所の民設民営で1,053人（低学年：649人、高学年404人）の利用（一時利用含む。）となっています。

公設民営	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
低学年	人	908	946	938	952
高学年	人	610	649	641	646
合計	人	1,518	1,595	1,579	1,598
定員数	人	1,450	1,450	1,450	1,450
実施施設数	箇所	26	26	26	26

民設民営	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
低学年	人	613	649	657	649
高学年	人	326	314	367	404
合計	人	939	963	1,024	1,053
定員数	人	895	935	999	1,039
実施施設数	箇所	22	22	23	24

資料：子育て支援課（各年度5月1日現在）

⑦子育て短期支援事業（ショートステイ）の状況

子育て短期支援事業（ショートステイ）とは、保護者の疾病などの理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童などについて、児童養護施設などに入所させ、必要な保護を行う事業であり、令和5（2023）年度では4箇所あり、年間利用者数（実人数）は51人となっています。

		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年間利用者数	実人数	人	15	17	33	51
	延人数	人	60	37	114	168
	延日数	日	118	75	213	306
実施施設数		箇所	4	4	4	4

資料：子育て相談課

⑧一時預かり事業の状況

一時預かり事業とは、家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について、主として昼間において、教育・保育施設などの場所において、一時的に預かり、必要な保護を行う事業であり、令和5(2023)年度では、幼稚園などにおける一時預かり（預かり保育）は10箇所で18,705人、保育所における一時預かりは8箇所で2,328人の利用となっています。

幼稚園などにおける一時預かり	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年間利用者延人数	人	22,589	22,067	19,221	18,705
実施施設数	箇所	10	10	10	10

保育所などにおける一時預かり	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年間利用者延人数	人	1,625	1,644	1,994	2,328
実施施設数	箇所	8	8	8	8

資料：保育課

⑨養育支援訪問事業の状況

養育支援訪問事業とは、養育支援が特に必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言などを行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保する事業であり、令和5(2023)年度では訪問支援者29人で632件の訪問件数となっています。

		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
訪問家庭数	実数	件	949	751	951	632
	延数	件	1,892	1,345	1,752	1,492
訪問支援者数		人	29	28	26	29

資料：子育て相談課

⑩乳児家庭全戸訪問事業の状況

乳児家庭全戸訪問事業とは、生後2～3か月の乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育て支援に関する相談や情報提供、養育環境などの把握を行う事業であり、令和5(2023)年度の訪問件数は608件となっています。

	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
妊娠届出数	件	742	710	646	602
訪問件数	件	692	682	654	608

資料：子育て相談課

（３）小学校・中学校・義務教育学校の状況

本市の小学校・中学校・義務教育学校は、令和6(2024)年度現在、小学校17校、中学校8校、義務教育学校※2校となっています。

①小学校

	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
児童数	人	6,132	6,018	6,048	5,735	5,624
学校数	校	20	20	20	17	17

資料：学校教育課（各年度5月1日現在）

②中学校

	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
生徒数	人	3,033	3,037	3,052	2,958	2,916
学校数	校	9	9	9	8	8

資料：学校教育課（各年度5月1日現在）

③義務教育学校

	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
前期課程（6年間）	人	32	26	29	201	197
後期課程（3年間）	人	30	31	24	83	83
学校数	校	1	1	1	2	2

資料：学校教育課（各年度5月1日現在）

※義務教育学校とは、学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するため、現在の小・中学校に加え、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校です。本市では令和5(2023)年度に関谷小学校、大貫小学校、横林小学校、箒根中学校の4校を統合し、市内2校目となる箒根学園を設置しました。

（４）障害児通所施設の状況

障害児通所施設の延べ利用件数は、おおむね増加傾向で推移しており、令和5(2023)年度は児童発達支援が2,402件、放課後等デイサービスが5,606件、保育所等訪問支援が174件となっています。

延べ利用件数	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
児童発達支援	件	1,520	1,635	1,962	2,402
放課後等デイサービス	件	3,224	3,810	4,575	5,606
保育所等訪問支援	件	145	147	212	174

資料：社会福祉課

3 各種調査結果から分かる子育て世帯の生活の現状

(1) 子ども・子育て支援に関するニーズ調査

「第3期那須塩原市子ども・子育て未来プラン（令和7～11年度）」の策定を進めるに当たり、子育て家庭の生活状況や市の施策に対する、保護者の方の意見・要望を把握し、那須塩原市の新しい子育て支援策を検討するため、未就学児、小学生のいる家庭の保護者にニーズ調査を実施しました。

■調査の対象と実施方法

○調査対象：那須塩原市在住の未就学児がいる家庭の保護者

○調査期間：令和6(2024)年2月20日～令和6(2024)年3月31日

○調査方法：郵送配布・回収、WEB回答

○配布・回収：

配布数	回収数		回収率
2,000票	1,226票		61.3%
	WEB	紙	
	623票	603票	

○調査対象：那須塩原市在住の小学生がいる家庭の保護者

○調査期間：令和6(2024)年2月20日～令和6(2024)年3月31日

○調査方法：郵送配布・回収、WEB回答

○配布・回収：

配布数	回収数		回収率
2,000票	1,250票		62.5%
	WEB	紙	
	656票	594票	

■調査報告書の見方

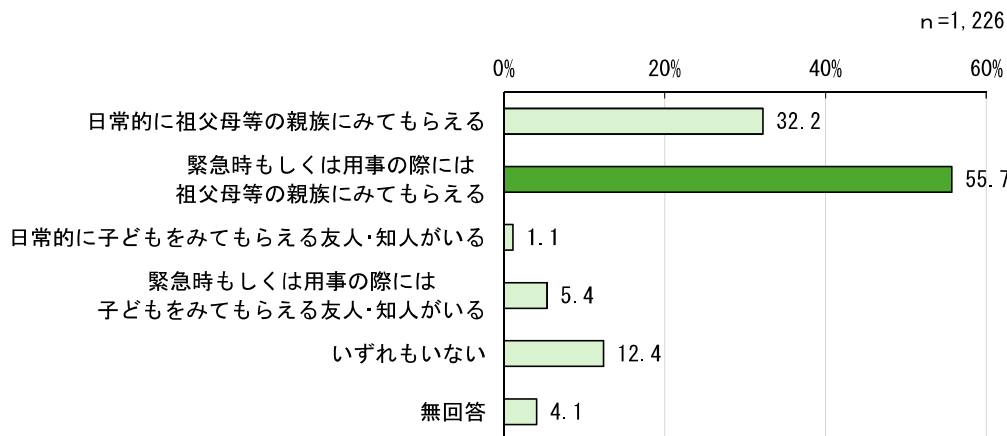
百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出しています。本文及び図中の数字に関しては、全て小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。このため、全ての割合の合計が100%にならないことがあります。また、複数回答の設問では、全ての割合の合計が100%を超えることがあります。

●調査の結果概要（就学前児童保護者）

①こどもの育ちをめぐる環境について

○お子さんをみてもらえる親族・知人

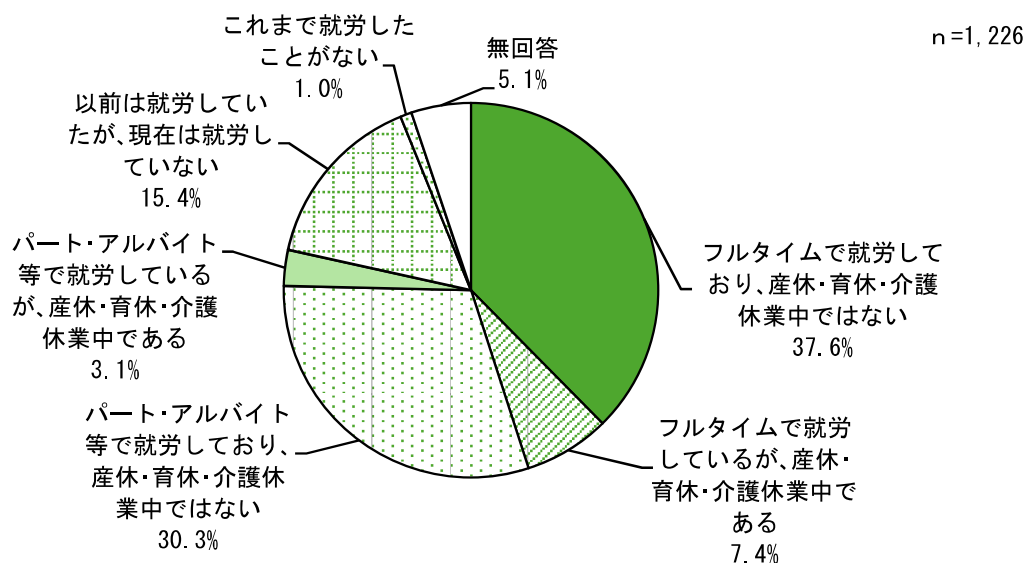
お子さんをみてもらえる親族・知人の有無は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が55.7%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が32.2%、「いずれもない」が12.4%となっています。



②保護者の就労状況について

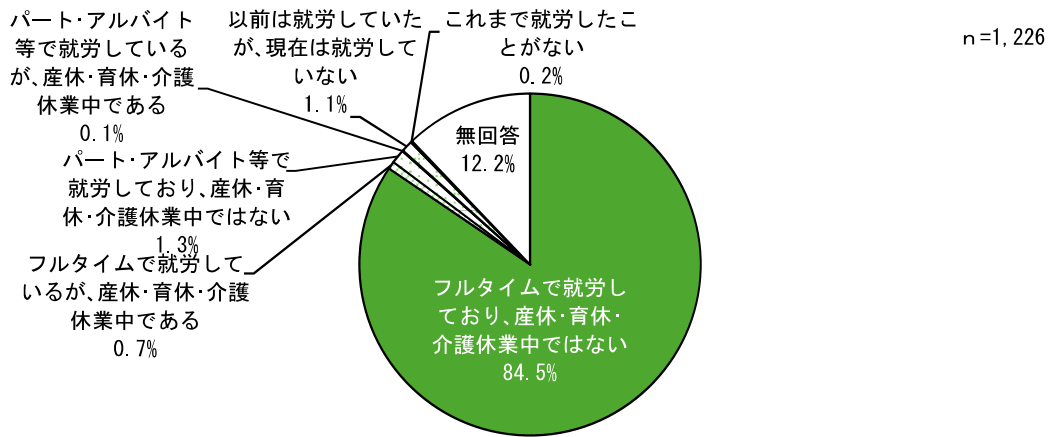
○母親の就労形態

母親の就労形態は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が37.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が30.3%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が15.4%となっています。



○父親の就労形態

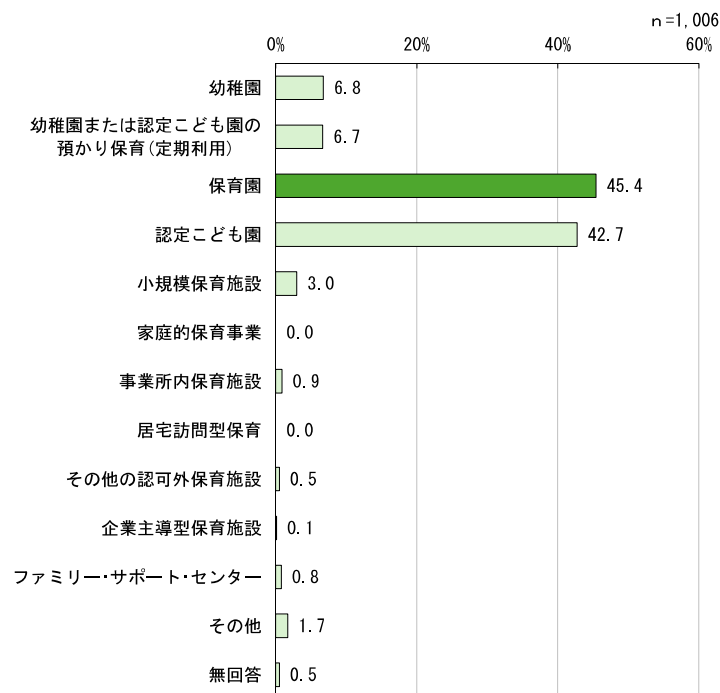
父親の就労形態は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が84.5%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が1.3%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が1.1%となっています。



③お子さんの平日の定期的な教育・保育の利用状況について

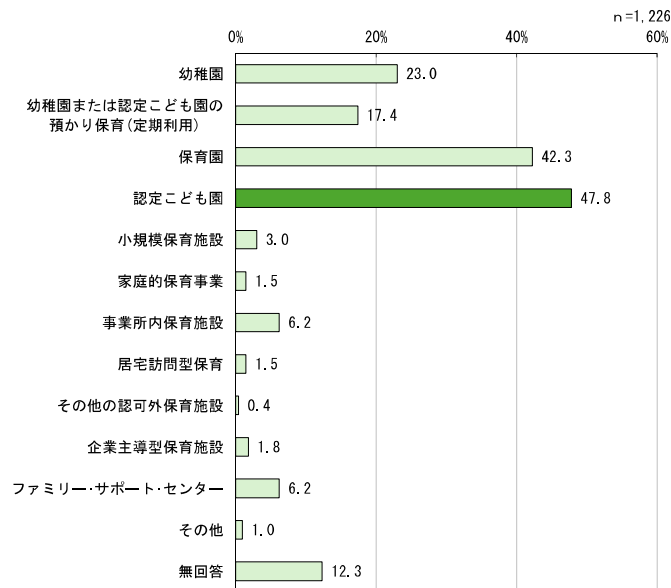
○平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況は、「保育園」が45.4%と最も高く、次いで「認定こども園」が42.7%、「幼稚園」が6.8%となっています。



○定期的に利用したい教育・保育事業

定期的に利用したい教育・保育事業は、「認定こども園」が47.8%と最も高く、次いで「保育園」が42.3%、「幼稚園」が23.0%となっています。

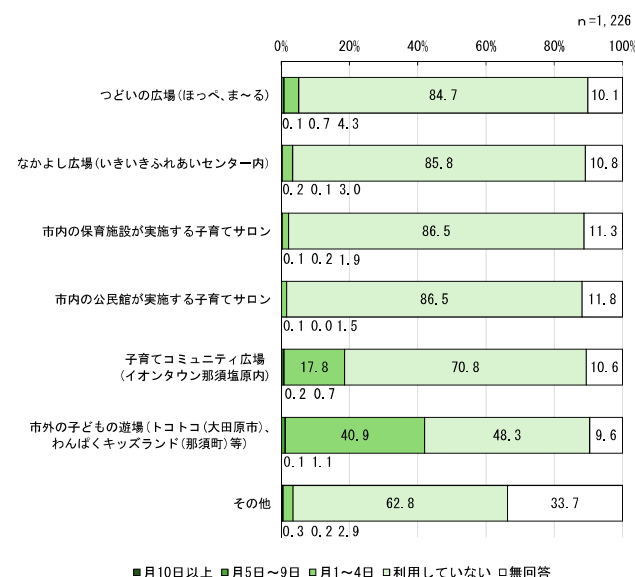


④地域の子育て支援事業などの利用状況について

○子育て支援事業の利用状況

地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「月1～4日」としては、「市外の子どもの遊び場（トコトコ（大田原市）、わんぱくキッズランド（那須町）等）」が40.9%と最も高く、次いで「子育てコミュニティ広場（イオンタウン那須塩原内）」が17.8%、「つどいの広場（ほっぺ、ま〜る）」が4.3%となっています。

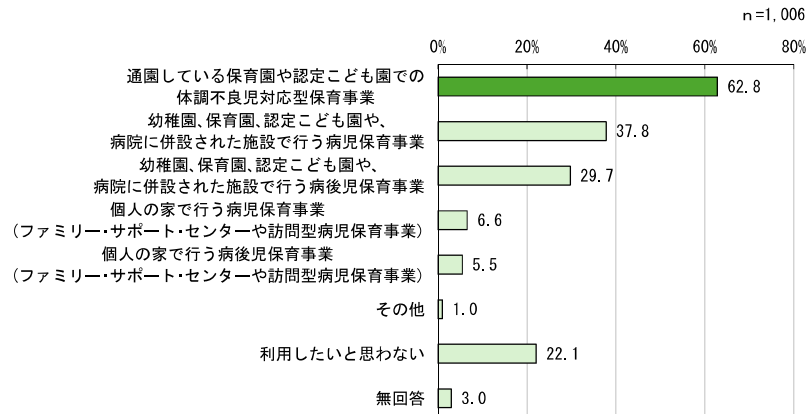
「利用していない」としては、「市内の保育施設が実施する子育てサロン」、「市内の公民館が実施する子育てサロン」がそれぞれ86.5%と最も高く、次いで「なかよし広場（いきいきふれあいセンター内）」が85.8%となっています。



⑤病気の際の対応について（平日の教育・保育事業を利用する方のみ）

○病気の際に利用したい事業

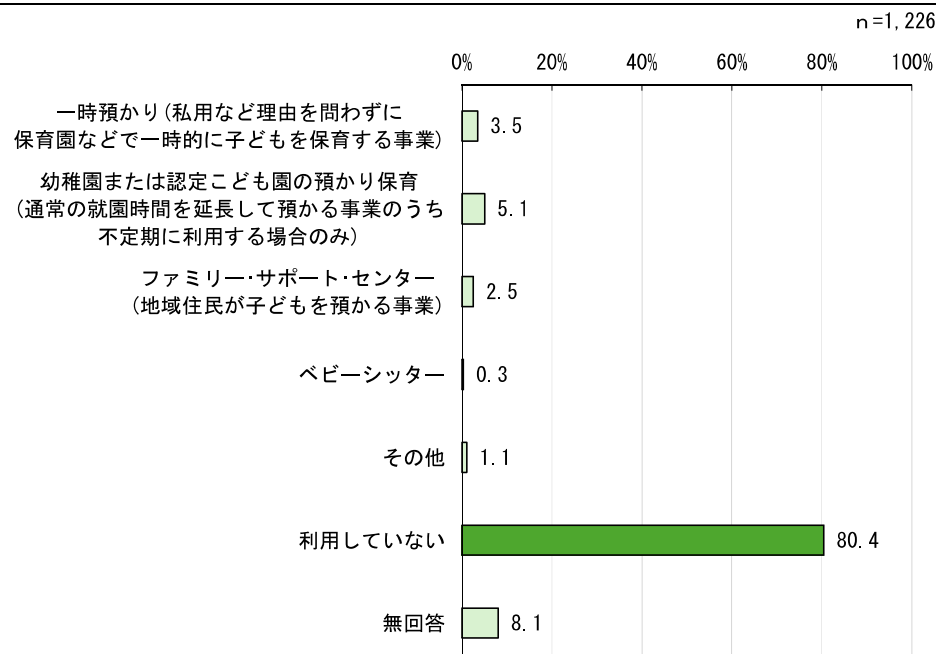
お子さんが病気の際に父母が仕事を休んで看られない場合の利用したい事業は、「通園している保育園や認定こども園での体調不良児対応型保育事業」が62.8%と最も高く、次いで「幼稚園、保育園、認定こども園や、病院に併設された施設で行う病児保育事業」が37.8%、「幼稚園、保育園、認定こども園や、病院に併設された施設で行う病後児保育事業」が29.7%、「幼稚園、保育園、認定こども園や、病院に併設された施設で行う病児保育事業」が6.6%、「ファミリー・サポート・センターや訪問型病児保育事業」が5.5%、「その他」が1.0%、「利用したいと思わない」が22.1%、「無回答」が3.0%となっています。



⑥不定期の教育・保育事業や宿泊を伴わない一時預かりなどの利用について

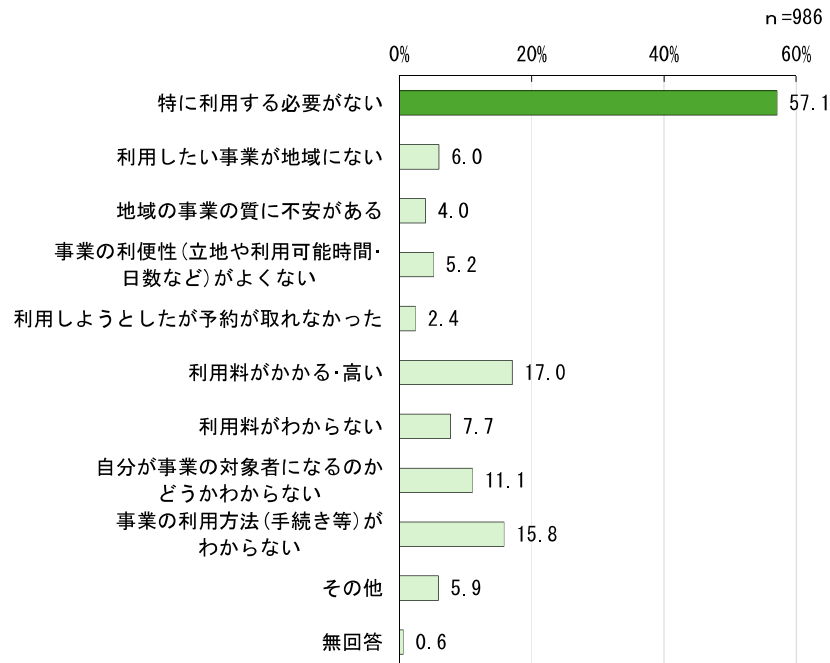
○不定期に利用している事業

不定期に利用している事業は、「利用していない」が80.4%と最も高く、次いで「幼稚園または認定こども園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）」が5.1%、「一時預かり（私用など理由を問わずに保育園などで一時的に子どもを保育する事業）」が3.5%、「ファミリー・サポート・センター（地域住民が子どもを預かる事業）」が2.5%、「ベビーシッター」が0.3%、「その他」が1.1%、「利用していない」が80.4%、「無回答」が8.1%となっています。



○不定期的に事業を利用していない理由

不定期的に事業を利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が57.1%と最も高く、次いで「利用料がかかる・高い」が17.0%、「事業の利用方法（手続き等）がわからない」が15.8%となっています。



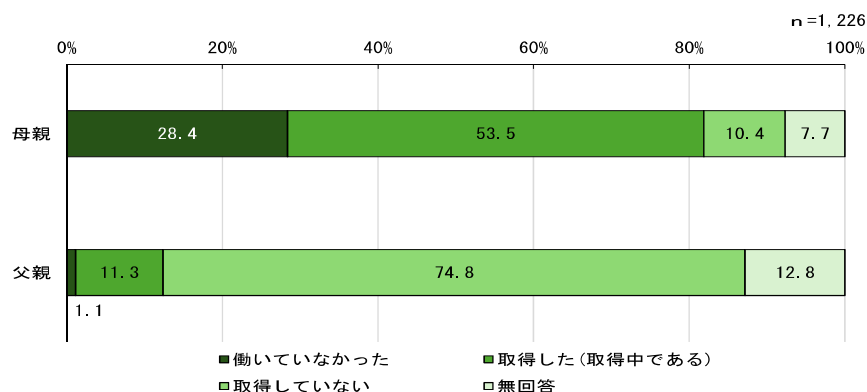
⑦育児休業の取得について

○育児休業の取得有無

父母のいずれかもしくは双方の育児休業取得の有無は、「働いていなかった」としては、「母親」が28.4%、「父親」が1.1%となっています。

「取得した（取得中である）」としては、「母親」が53.5%、「父親」が74.8%となっています。

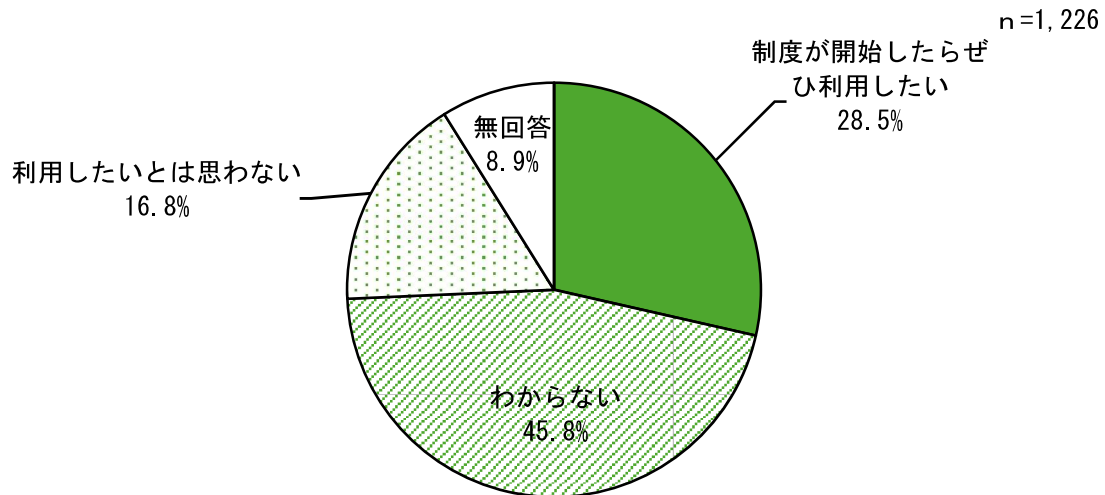
「取得していない」としては、「母親」が10.4%、「父親」が12.8%となっています。



⑧「こども誰でも通園制度」について

○こども誰でも通園制度について

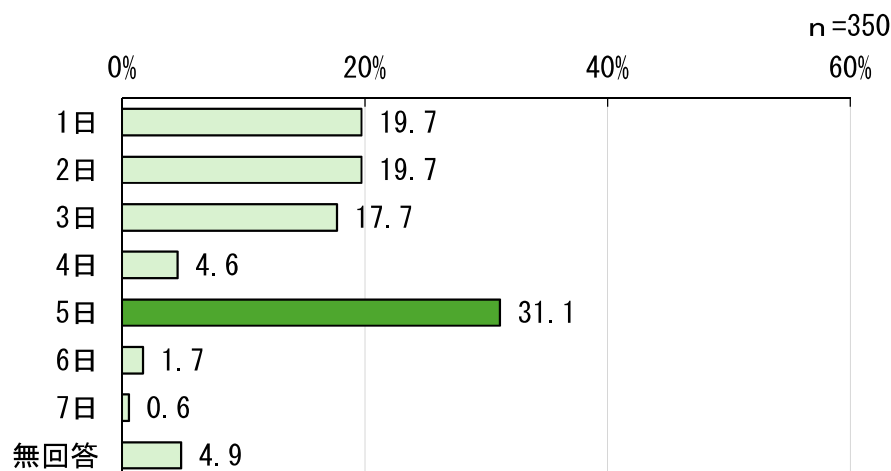
こども誰でも通園制度の利用希望は、「わからない」が45.8%と最も高く、次いで「制度が開始したらぜひ利用したい」が28.5%、「利用したいとは思わない」が16.8%となっています。



○こども誰でも通園制度の利用希望

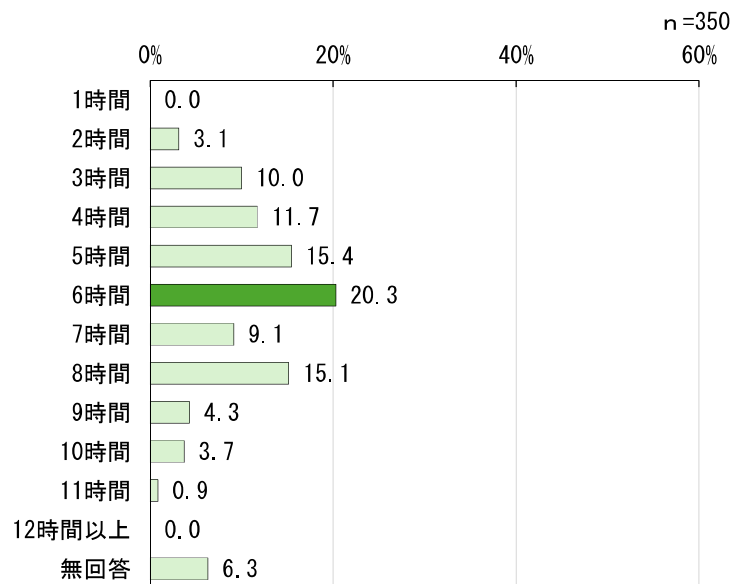
【利用したい日数】

こども誰でも通園制度を利用したい1週間当たりの日数は、「5日」が31.1%と最も高く、次いで「1日」、「2日」がそれぞれ19.7%となっています。



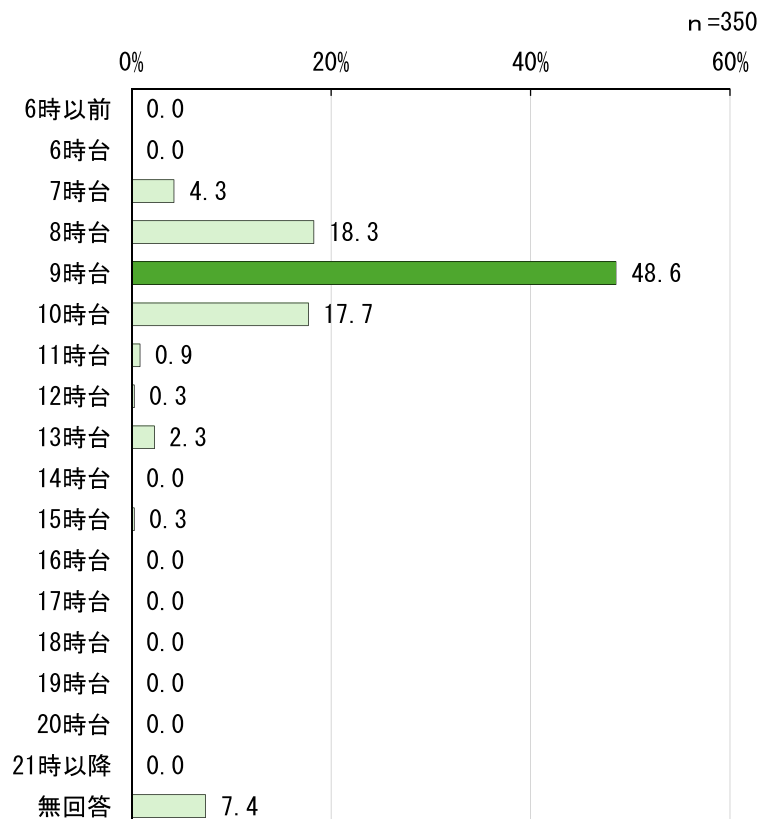
【1回当たりの時間】

こども誰でも通園制度を利用したい1回当たりの時間は、「6時間」が20.3%と最も高く、次いで「5時間」が15.4%、「8時間」が15.1%となっています。



【開始時間】

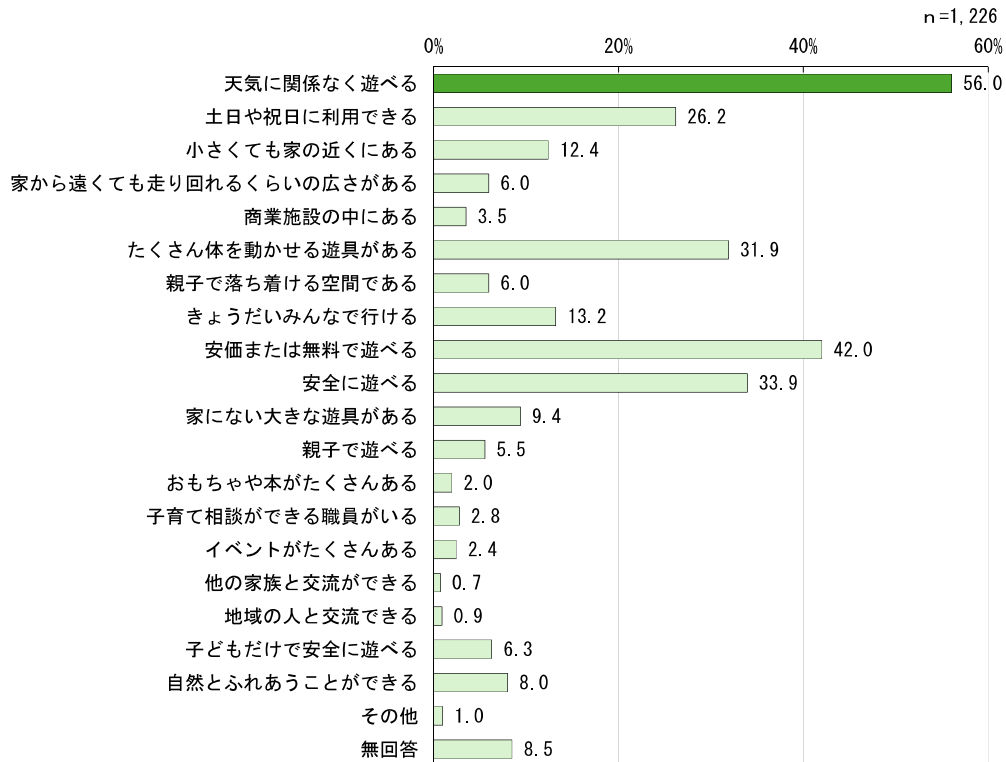
こども誰でも通園制度を利用したい開始時間は、「9時台」が48.6%と最も高く、次いで「8時台」が18.3%、「10時台」が17.7%となっています。



⑨那須塩原市の子育て環境や支援について

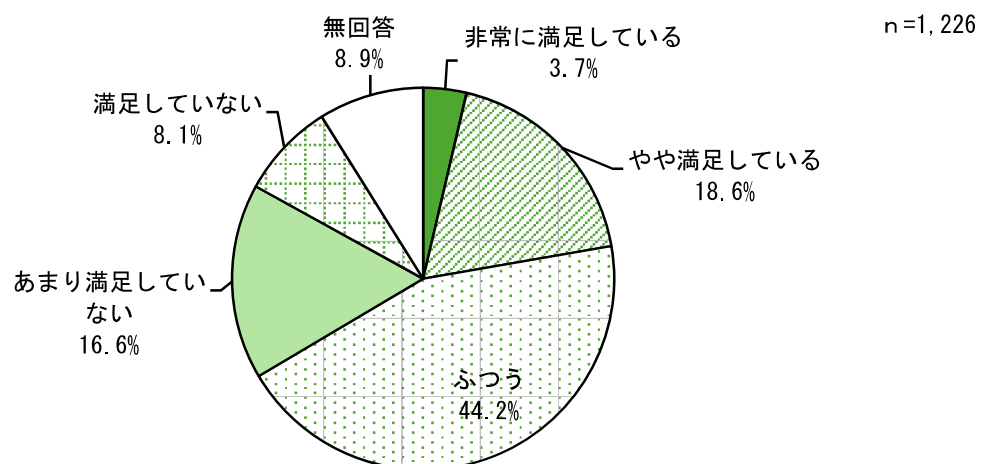
○こどもの遊び場について

こどもの遊び場について重要だと思うことは、「天気に関係なく遊べる」が56.0%と最も高く、次いで「安価または無料で遊べる」が42.0%、「安全に遊べる」が33.9%となっています。



○子育て環境や支援への満足度

子育て環境や支援への満足度は、「ふつう」が44.2%と最も高く、次いで「やや満足している」が18.6%、「あまり満足していない」が16.6%となっています。

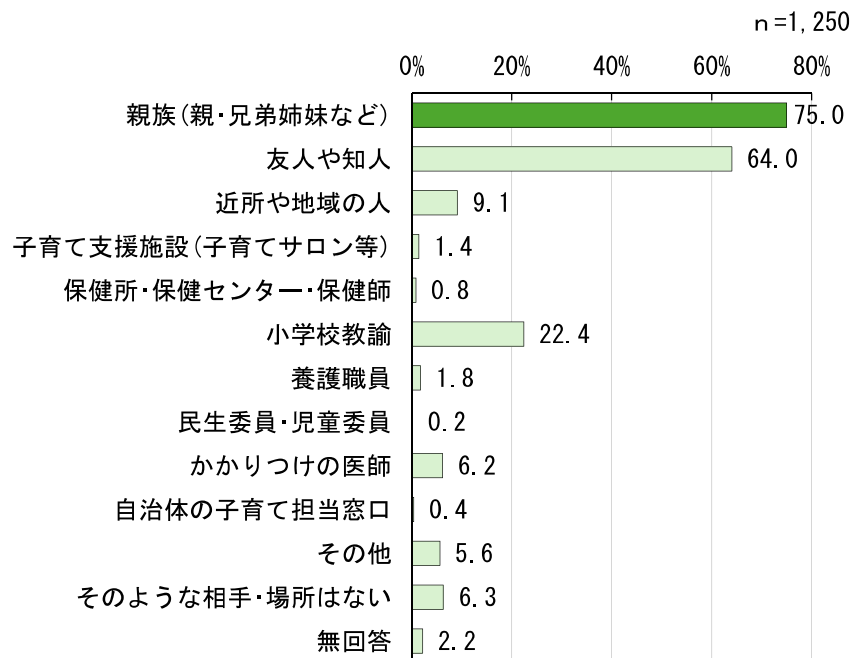


●調査の結果概要（小学生保護者）

①こどもの育ちをめぐる環境について

○子育てについて気軽に相談できる相手

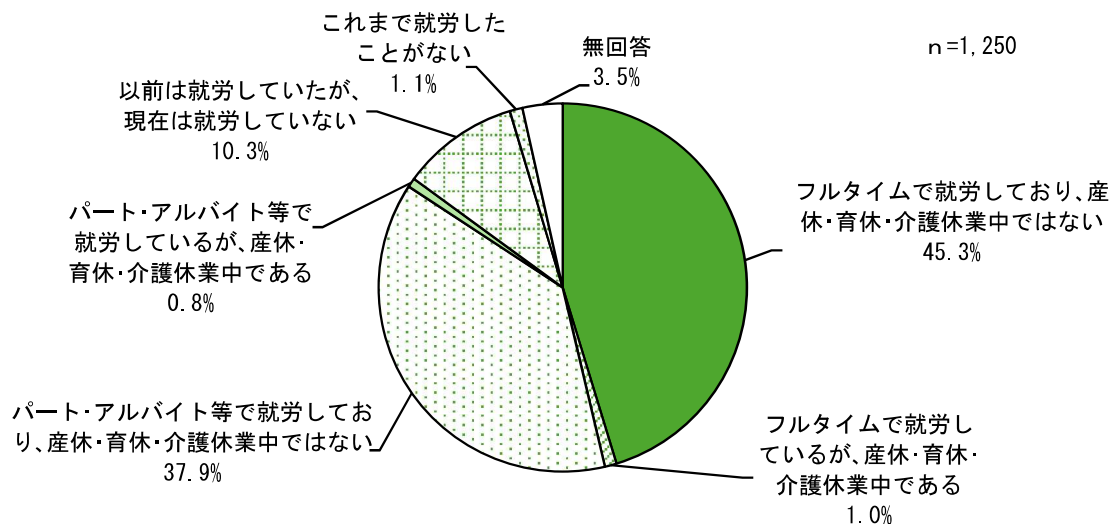
こどものことや子育てについて気軽に相談できる相手は、「親族（親・兄弟姉妹など）」が75.0%と最も高く、次いで「友人や知人」が64.0%、「小学校教諭」が22.4%となっています。



②保護者の就労状況について

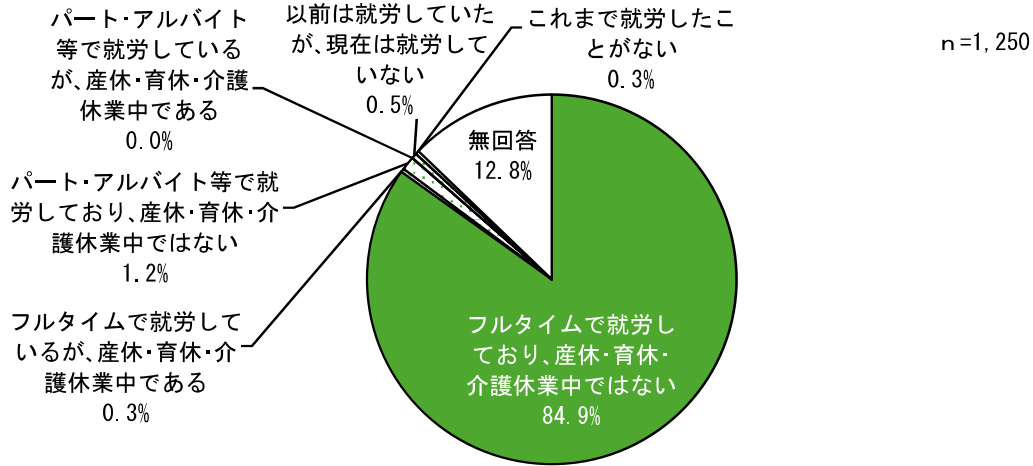
○母親の就労形態

母親の就労形態は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が45.3%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が37.9%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が10.3%となっています。



○父親の就労形態

父親の就労形態は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が84.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が1.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が0.5%となっています。

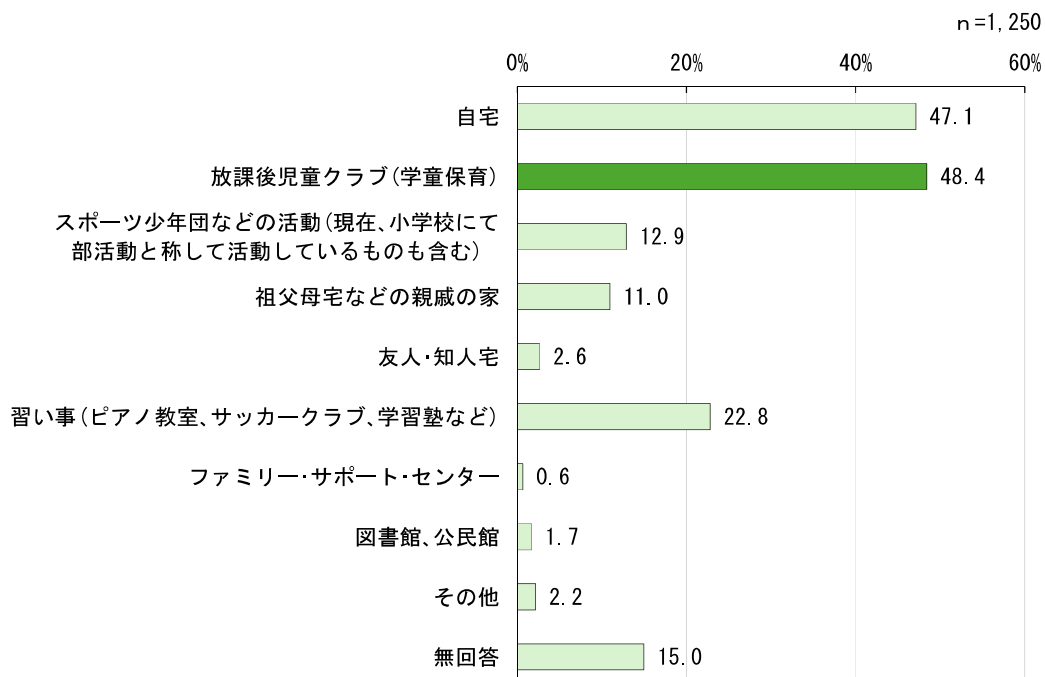


③放課後の過ごし方について

○放課後の過ごし方

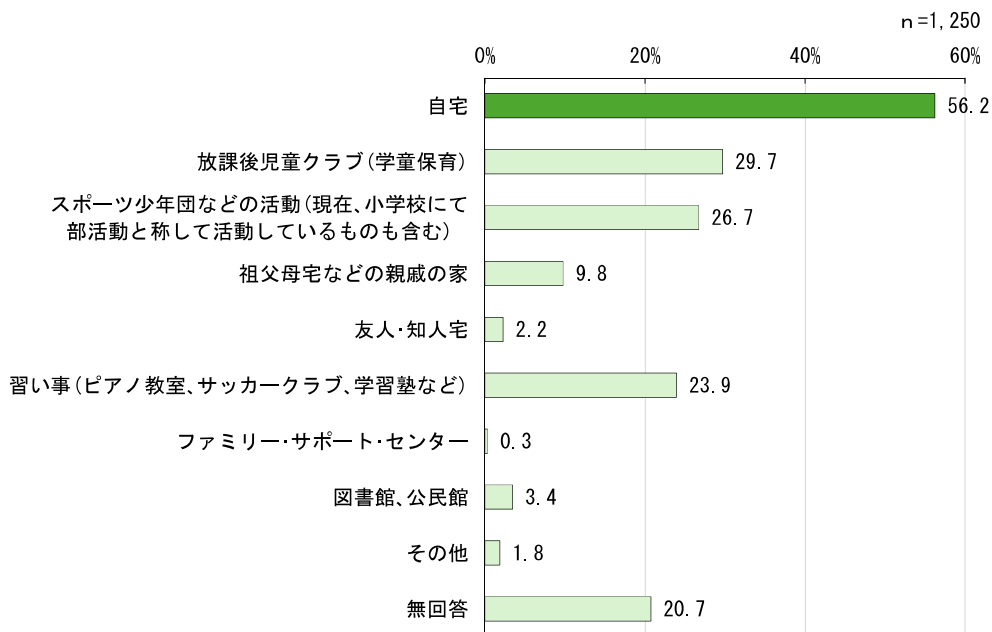
【1～3年生】

放課後（平日の小学校終了後）過ごさせたい場所は、「1～3年生」としては、「放課後児童クラブ（学童保育）」が48.4%と最も高く、次いで「自宅」が47.1%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が22.8%となっています。



【4～6年生】

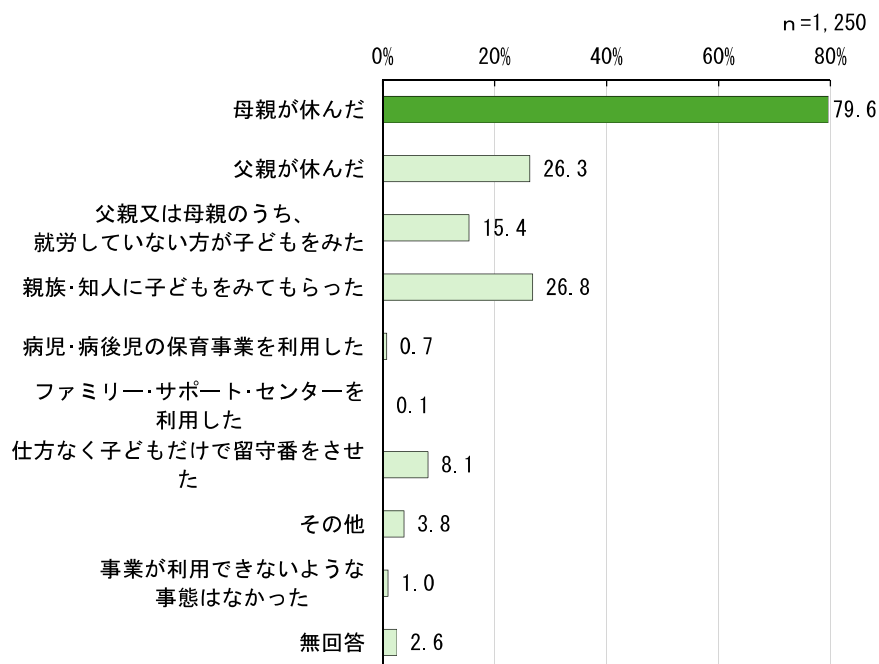
「4～6年生」としては、「自宅」が56.2%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」が29.7%、「スポーツ少年団などの活動（現在、小学校にて部活動と称して活動しているものも含む）」が26.7%となっています。



④病気やけがの際の対応について

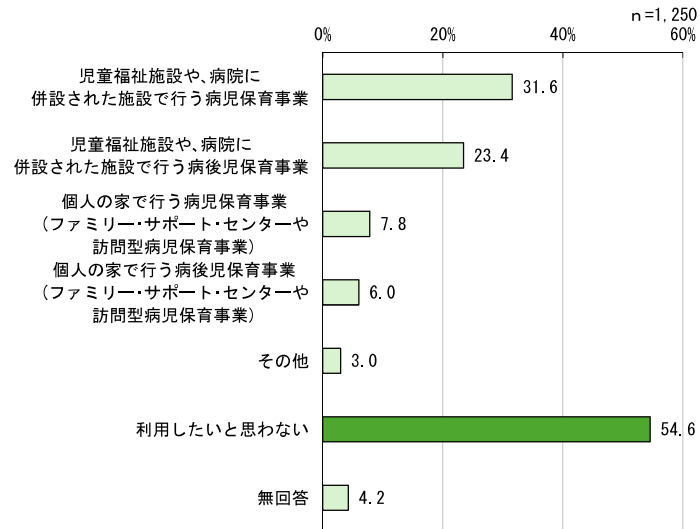
○病気やけがの際の対応

お子さんが病気やけがの際の対処方法は、「母親が休んだ」が79.6%と最も高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」が26.8%、「父親が休んだ」が26.3%となっています。



○病気やけがの際に利用したい事業

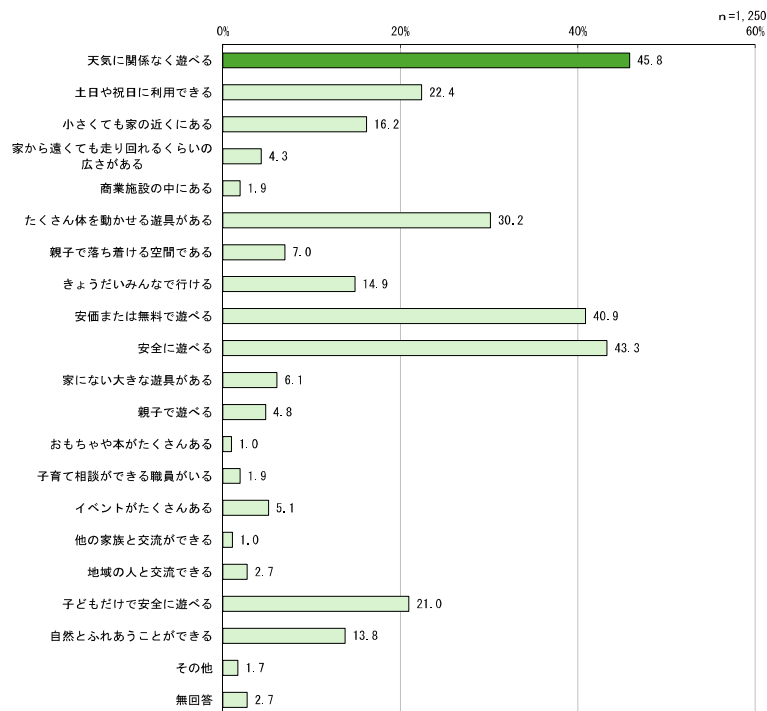
お子さんが病気の際に父母が仕事を休んで看られない場合の利用したい事業は、「利用したいと思わない」が54.6%と最も高く、次いで「児童福祉施設や、病院に併設された施設で行う病児保育事業」が31.6%、「児童福祉施設や、病院に併設された施設で行う病後児保育事業」が23.4%、「児童福祉施設や、病院に併設された施設で行う病児保育事業」が7.8%、「児童福祉施設や、病院に併設された施設で行う病後児保育事業」が6.0%、「児童福祉施設や、病院に併設された施設で行う病児保育事業」が3.0%、「児童福祉施設や、病院に併設された施設で行う病後児保育事業」が4.2%となっています。



⑤那須塩原市の子育て環境や支援について

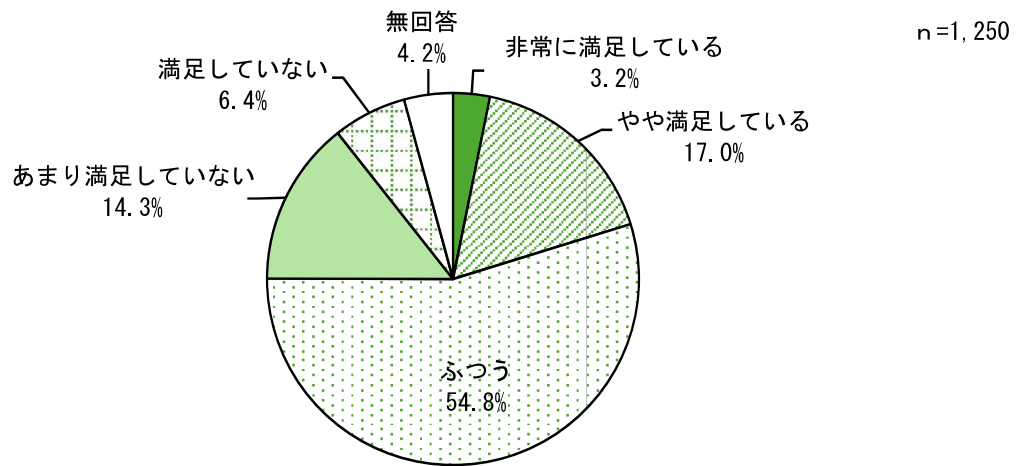
○こどもの遊び場について

こどもの遊び場について重要だと思うことは、「天気に関係なく遊べる」が45.8%と最も高く、次いで「安全に遊べる」が43.3%、「安価または無料で遊べる」が40.9%、「子どもだけで安全に遊べる」が21.0%、「自然とふれあうことができる」が13.8%となっています。



○子育て環境や支援への満足度

子育て環境や支援への満足度は、「ふつう」が54.8%と最も高く、次いで「やや満足している」が17.0%、「あまり満足していない」が14.3%となっています。



(2) 子育て世帯生活実態調査

那須塩原市のこどもの夢や悩み、生活環境や経済状況などを調べ、市内の子育て家庭の貧困状況などを把握し、こどもや子育て中の家庭に対する今後の支援を検討していくため、調査を実施しました。

■調査の対象と実施方法

○調査対象：那須塩原市の小学校などに通学している小学5年生

○調査期間：令和6(2024)年2月28日～令和6(2024)年3月31日

○調査方法：WEB回答

○配布・回収：

配布数	回収数		回収率
997票	937票		94.0%
	紙	WEB	
	0票	937票	

○調査対象：那須塩原市の中学校などに通学している中学2年生

○調査期間：令和6(2024)年2月28日～令和6(2024)年3月31日

○調査方法：学校配布・郵送回収、WEB回答

○配布・回収：

配布数	回収数		回収率
992票	877票		88.4%
	紙	WEB	
	1票	876票	

○調査対象：那須塩原市の小・中学校などに通学している小学5年生・中学2年生の保護者

○調査期間：令和6(2024)年2月28日～令和6(2024)年3月31日

○調査方法：学校配布・郵送回収、WEB回答

○配布・回収：

配布数	回収数		回収率
1,989票	1,102票		55.4%
	紙	WEB	
	368票	734票	

①子育て世帯における相対的な生活困難層の割合

本調査では、①低所得、②家計のひっ迫、③こどもの体験や所有物の欠如という3つの要素に基づいて分類し、二つ以上の要素に該当する層を困窮層、いずれか一つの要素に該当する層を周辺層、いずれの要素にも該当しない層を一般層と定義しました。算出した結果は次のとおりとなります。

	小学5年生	中学2年生	全体
生活困難層	35.2%	36.6%	35.6%
困窮層	15.8%	15.4%	15.7%
周辺層	19.4%	21.2%	19.9%
一般層	64.8%	63.4%	64.4%

	小学5年生	中学2年生	全体
①低所得※ ¹	14.1%	15.0%	14.2%
②家計のひっ迫※ ²	21.1%	19.5%	20.3%
③こどもの体験や所有物の欠如※ ³	19.2%	21.4%	20.4%

※1 低所得

「低所得」は、世帯所得を、世帯人数の平方根で割った値（等価所得）が、厚生労働省「2022（令和4）年国民生活基礎調査」から算出される基準未満（141,0万円）の世帯とします。

※2 家計のひっ迫

経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験、食料・衣服を買えなかった経験などの7項目のうち、一つ以上が該当する世帯を対象とします。

※3 こどもの体験や所有物の欠如

「こどもの体験や所有物の欠如」は、大多数のこどもが一般的に享受していると考えられる経験や物品で、こどもの体験や所有物などに関する14項目のうち、経済的な理由で、欠如している項目が3つ以上該当する世帯を対象とします。

○こどもとの体験に関する6項目

- ・「海水浴、山登り、ハイキングに行く」
- ・「キャンプ、バーベキューに行く」
- ・「家族旅行に行く」
- ・「遊園地やテーマパークに行く」
- ・「スポーツ観戦に行く」
- ・「博物館、水族館、美術館に行く」

○こどもへの体験に関する6項目

- ・「毎月お小遣いを渡す」
- ・「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる」
- ・「学習塾に通わせる(家庭教師に来てもらう)」
- ・「誕生日のお祝いをする」
- ・「クリスマスなどのイベントでプレゼントをあげる」
- ・「正月のお年玉をあげる」

○所有物に関する2項目

- ・「こども用のおもちゃ」
- ・「こどもの年齢に合った本」

また、「生活困難層」を世帯分類別でみると、以下のとおりとなりました。

	生活困難層			一般層
		困窮層	周辺層	
ふたり親	31.4%	11.9%	19.5%	68.6%
ひとり親	58.5%	34.5%	24.0%	41.5%

	①低所得	②家計のひっ迫	③こどもの体験や 所有物の欠如
ふたり親	9.0%	18.7%	17.5%
ひとり親	38.0%	31.0%	37.0%

全対象者における「ふたり親」「ひとり親」それぞれの割合

	小学5年生	中学2年生
ふたり親	83.7%	76.5%
ひとり親	14.9%	21.4%

●児童・生徒向けアンケート

①あなたの「夢」について

○将来の夢

将来の夢を学年別にみると、どちらも「ある」が「ない」を上回っていますが、「中学2年生」が65.9%であるのに対して、「小学5年生」は82.6%と、16.7ポイント上回っています。

世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で「ある」が「ない」を上回っており、「ふたり親」では生活困難度が上がるにつれて「ある」の割合が上昇しています。

		合計	ある	ない	無回答
学年	全体	1,814	74.5	25.2	0.3
	小学5年生	937	82.6	17.3	0.1
	中学2年生	877	65.9	33.6	0.5
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	100	78.0	22.0	0.0
	周辺層	165	76.4	23.6	0.0
	一般層	595	74.3	25.4	0.3
	【ひとり親】困窮層	65	72.3	27.7	0.0
	周辺層	47	76.6	23.4	0.0
	一般層	79	70.9	29.1	0.0

○進学希望

進学希望を世帯分類と生活困難度別にみると、どちらの世帯分類も「困窮層」は「高校まで」が最も高くなっているのに対して、「周辺層」と「一般層」は「大学まで」が最も高くなっています。また、どちらの世帯分類も「一般層」は「大学まで」が半数を上回っています。

		合計	中学まで	高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学まで	大学院まで	まだわからない	無回答
世帯分類×生活困難度	全体	877	0.6	21.8	14.5	44.1	1.5	17.2	0.3
	【ふたり親】困窮層	39	2.6	38.5	15.4	35.9	0.0	7.7	0.0
	周辺層	72	2.8	22.2	13.9	38.9	2.8	19.4	0.0
	一般層	261	0.0	14.9	13.0	53.3	1.5	16.9	0.4
	【ひとり親】困窮層	34	0.0	38.2	29.4	20.6	0.0	11.8	0.0
	周辺層	29	0.0	27.6	20.7	31.0	0.0	20.7	0.0
	一般層	41	0.0	9.8	22.0	51.2	4.9	12.2	0.0

②食事や健康のことについて

○平日の朝食摂取の状況

平日の朝食摂取の状況を学年別にみると、どちらも「いつも食べる（週5日）」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で「いつも食べる（週5日）」が最も高くなっており、どちらの世帯分類も生活困難度が上がるにつれて、「いつも食べる（週5日）」の割合が低下しています。

		合計	いつも食 べる(週5 日)	食べる方 が多い (週に3～ 4日)	食べない 方が多い (週に1～ 2日)	いつも食 べない	無回答
	全体	1,814	85.4	6.2	4.8	3.1	0.4
学年	小学5年生	937	87.6	5.4	4.8	1.7	0.4
	中学2年生	877	83.0	7.1	4.8	4.7	0.5
	【ふたり親】困窮層	100	82.0	7.0	7.0	3.0	1.0
世帯分類×生 活困難度	周辺層	165	87.9	6.7	3.0	1.8	0.6
	一般層	595	93.3	2.7	1.5	2.2	0.3
	【ひとり親】困窮層	65	81.5	7.7	4.6	6.2	0.0
	周辺層	47	87.2	6.4	0.0	6.4	0.0
	一般層	79	93.7	2.5	1.3	2.5	0.0

○平日の朝食摂取時の相手

平日の朝食摂取時の相手を学年別にみると、どちらも「親」が最も高くなっていますが、「小学5年生」（61.5％）が「中学2年生」（49.6％）を11.9ポイント上回っています。また、「一人で食べる」は「小学5年生」が17.0％であるのに対して、「中学2年生」が32.1％と15.1ポイント上回っています。

世帯分類と生活困難度別にみると、「ふたり親・困窮層」は「兄弟・姉妹」、「ふたり親・周辺層」は「親」と「兄弟・姉妹」が最も高く、そのほかは「親」が最も高くなっています。また、「ふたり親」では生活困難度が上がるにつれて、「親」の割合が低下し、「一人で食べる」の割合は上昇しています。

		合計	親	兄弟・姉 妹	その他の 家族(祖 父母な ど)	家族以外 の人	一人で食 べる	無回答
	全体	1,749	55.9	52.0	4.1	0.2	24.2	0.1
学年	小学5年生	917	61.5	59.4	4.9	0.3	17.0	0.0
	中学2年生	832	49.6	43.8	3.1	0.1	32.1	0.2
	【ふたり親】困窮層	96	53.1	56.3	5.2	0.0	22.9	0.0
世帯分類×生 活困難度	周辺層	161	58.4	58.4	3.7	0.0	21.7	0.0
	一般層	580	63.1	57.9	4.7	0.0	18.6	0.0
	【ひとり親】困窮層	61	54.1	41.0	1.6	0.0	31.1	0.0
	周辺層	44	47.7	38.6	4.5	0.0	34.1	0.0
	一般層	77	59.7	45.5	10.4	0.0	26.0	0.0

○平日の夕食摂取の状況

平日の夕食摂取の状況を学年別にみると、どちらも「いつも食べる（週5日）」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で「いつも食べる（週5日）」が最も高く、9割台となっています。

		合計	いつも食 べる(週5 日)	食べる方 が多い (週に3～ 4日)	食べない 方が多い (週に1～ 2日)	いつも食 べない	無回答
全体		1,814	94.4	3.6	0.8	0.4	0.7
学年	小学5年生	937	94.2	3.9	0.9	0.2	0.7
	中学2年生	877	94.6	3.3	0.8	0.6	0.7
世帯分類×生 活困難度	【ふたり親】困窮層	100	94.0	4.0	1.0	0.0	1.0
	周辺層	165	97.0	2.4	0.6	0.0	0.0
	一般層	595	96.8	1.8	0.5	0.2	0.7
	【ひとり親】困窮層	65	96.9	3.1	0.0	0.0	0.0
	周辺層	47	95.7	2.1	0.0	0.0	2.1
	一般層	79	97.5	1.3	1.3	0.0	0.0

○平日の夕食摂取時の相手

平日の夕食摂取時の相手を学年別にみると、どちらも「親」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で「親」が最も高くなっていますが、「ふたり親」、「ひとり親」ともに、「困窮層」は「周辺層」や「一般層」を下回っています。逆に、「一人で食べる」は、「困窮層」が「周辺層」や「一般層」を上回っています。

		合計	親	兄弟・姉 妹	その他の 家族(祖 父母な ど)	家族以外 の人	一人で食 べる	無回答
全体		1,794	89.5	64.1	11.5	1.1	4.7	0.2
学年	小学5年生	928	91.4	67.8	12.7	1.3	3.6	0.0
	中学2年生	866	87.5	60.2	10.3	0.8	6.0	0.3
世帯分類×生 活困難度	【ふたり親】困窮層	99	88.9	75.8	7.1	2.0	5.1	0.0
	周辺層	165	93.3	69.7	12.7	0.0	3.6	0.0
	一般層	590	93.1	66.3	10.7	1.0	2.5	0.0
	【ひとり親】困窮層	65	84.6	56.9	18.5	0.0	7.7	0.0
	周辺層	46	91.3	63.0	17.4	4.3	2.2	0.0
	一般層	79	91.1	60.8	19.0	1.3	3.8	1.3

③ふだん考えていることについて

○ふだんの思いや気持ち

※ここでは、以下のように表記しています。
「とても思う」＋「思う」＝『そう思う』
「思わない」＋「あまり思わない」＝『そう思わない』

【A 頑張れば、報われると思う】

ふだんの思いや気持ちのうち、「頑張れば、報われると思う」について学年別にみると、どちらも『そう思う』が7割を超え、『そう思わない』を上回っています。
世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で『そう思う』が『そう思わない』を上回っています。また、「ふたり親」は生活困難度が上がるにつれて『そう思う』の割合が低下しています。

		合計	とても思う	思う	あまり思わない	思わない	無回答
	全体	1,814	40.9	36.8	15.4	5.8	1.0
学年	小学5年生	937	43.0	34.7	16.4	4.5	1.4
	中学2年生	877	38.7	39.1	14.4	7.2	0.7
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	100	36.0	37.0	16.0	9.0	2.0
	周辺層	165	43.0	37.6	15.8	3.6	0.0
	一般層	595	45.5	35.8	12.6	4.9	1.2
	【ひとり親】困窮層	65	33.8	35.4	26.2	3.1	1.5
	周辺層	47	34.0	44.7	12.8	6.4	2.1
	一般層	79	36.7	40.5	17.7	5.1	0.0

【B 自分は価値のある人間だと思う】

ふだんの思いや気持ちのうち、「自分は価値のある人間だと思う」について学年別にみると、どちらも『そう思う』が『そう思わない』を上回っています。
世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で『そう思う』が『そう思わない』を上回っています。また、「ふたり親」では生活困難度が上がるにつれて『そう思う』の割合が低下しています。

		合計	とても思う	思う	あまり思わない	思わない	無回答
	全体	1,814	24.3	38.0	26.1	10.5	1.0
学年	小学5年生	937	24.7	37.8	25.8	10.2	1.5
	中学2年生	877	23.9	38.2	26.5	10.8	0.6
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	100	22.0	39.0	23.0	14.0	2.0
	周辺層	165	29.1	34.5	27.3	9.1	0.0
	一般層	595	25.2	41.3	24.2	8.4	0.8
	【ひとり親】困窮層	65	13.8	43.1	32.3	7.7	3.1
	周辺層	47	19.1	38.3	23.4	17.0	2.1
	一般層	79	21.5	31.6	35.4	11.4	0.0

【C 自分は家族に大切にされていると思う】

ふだんの思いや気持ちのうち、「自分は家族に大切にされていると思う」について学年別にみると、どちらも『そう思う』が9割を超え、『そう思わない』を上回っています。世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で『そう思う』が『そう思わない』を上回っていますが、「ひとり親・困窮層」については、「とても思う」が38.5%で、ほかが半数を超えているのと比べて低くなっています。

		合計	とても思う	思う	あまり思わない	思わない	無回答
学年	全体	1,814	58.4	32.9	6.0	1.8	0.9
	小学5年生	937	60.9	30.6	5.1	2.1	1.2
	中学2年生	877	55.8	35.2	6.8	1.5	0.7
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	100	55.0	36.0	5.0	3.0	1.0
	周辺層	165	61.8	30.3	6.1	1.8	0.0
	一般層	595	62.4	30.6	4.4	1.8	0.8
	【ひとり親】困窮層	65	38.5	52.3	7.7	0.0	1.5
	周辺層	47	55.3	34.0	8.5	0.0	2.1
	一般層	79	59.5	31.6	7.6	1.3	0.0

【D 自分は友だちに好かれていると思う】

ふだんの思いや気持ちのうち、「自分は友だちに好かれていると思う」について学年別にみると、どちらも『そう思う』が7割を超え、『そう思わない』を上回っています。世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で『そう思う』が『そう思わない』を上回っています。

		合計	とても思う	思う	あまり思わない	思わない	無回答
学年	全体	1,814	28.1	49.3	16.9	4.8	0.9
	小学5年生	937	27.6	47.6	18.0	5.4	1.3
	中学2年生	877	28.5	51.2	15.6	4.1	0.6
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	100	25.0	51.0	18.0	5.0	1.0
	周辺層	165	31.5	50.9	15.2	2.4	0.0
	一般層	595	30.4	51.6	12.8	4.2	1.0
	【ひとり親】困窮層	65	16.9	50.8	26.2	4.6	1.5
	周辺層	47	21.3	46.8	27.7	2.1	2.1
	一般層	79	29.1	48.1	19.0	3.8	0.0

【E 不安に感じることもある】

ふだんの思いや気持ちのうち、「不安に感じることもある」について学年別にみると、どちらも『そう思う』が『そう思わない』を上回っていますが、「小学5年生」が51.2%であるのに対して、「中学2年生」は61.9%と、10.7ポイント上回っています。世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で『そう思う』が『そう思わない』を上回っています。また、「ふたり親」では生活困難度が上がるにつれて『そう思う』の割合が上昇しています。

		合計	とても思 う	思う	あまり思 わない	思わない	無回答
	全体	1,814	23.4	33.0	24.9	17.7	1.0
学年	小学5年生	937	20.3	30.9	26.0	21.3	1.4
	中学2年生	877	26.7	35.2	23.6	13.8	0.7
世帯分類×生 活困難度	【ふたり親】困窮層	100	23.0	39.0	19.0	17.0	2.0
	周辺層	165	20.6	35.8	24.2	18.8	0.6
	一般層	595	19.7	32.3	28.6	18.5	1.0
	【ひとり親】困窮層	65	23.1	36.9	24.6	13.8	1.5
	周辺層	47	27.7	36.2	23.4	10.6	2.1
	一般層	79	30.4	31.6	22.8	15.2	0.0

【F 孤独を感じることもある】

ふだんの思いや気持ちのうち、「孤独を感じることもある」について学年別にみると、どちらも『そう思わない』が『そう思う』を上回っています。世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で『そう思わない』が『そう思う』を上回っています。また、「ふたり親」では生活困難度が上がるにつれて『そう思う』の割合が上昇しています。

		合計	とても思 う	思う	あまり思 わない	思わない	無回答
	全体	1,814	7.8	21.1	37.7	32.4	1.0
学年	小学5年生	937	6.3	18.8	37.6	35.9	1.5
	中学2年生	877	9.5	23.5	37.7	28.7	0.6
世帯分類×生 活困難度	【ふたり親】困窮層	100	6.0	23.0	40.0	30.0	1.0
	周辺層	165	6.7	19.4	37.6	36.4	0.0
	一般層	595	5.7	19.5	39.8	33.9	1.0
	【ひとり親】困窮層	65	9.2	20.0	40.0	29.2	1.5
	周辺層	47	6.4	29.8	42.6	19.1	2.1
	一般層	79	5.1	21.5	40.5	32.9	0.0

【G 自分の将来が楽しみだ】

ふだんの思いや気持ちのうち、「自分の将来が楽しみだ」について学年別にみると、どちらも『そう思う』が『そう思わない』を上回っていますが、「小学5年生」は「とても思う」が最も高く、「中学2年生」は「思う」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で『そう思う』が『そう思わない』を上回っています。

		合計	とても思う	思う	あまり思わない	思わない	無回答
学年	全体	1,814	32.7	31.8	22.9	11.7	0.9
	小学5年生	937	40.3	28.8	20.0	9.6	1.3
	中学2年生	877	24.5	35.0	26.0	13.9	0.6
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	100	32.0	27.0	30.0	10.0	1.0
	周辺層	165	38.8	32.1	18.8	10.3	0.0
	一般層	595	32.8	33.9	21.8	10.6	0.8
	【ひとり親】困窮層	65	30.8	27.7	26.2	13.8	1.5
	周辺層	47	31.9	40.4	17.0	8.5	2.1
	一般層	79	29.1	30.4	31.6	8.9	0.0

【H 自分のことが好きだ】

ふだんの思いや気持ちのうち、「自分のことが好きだ」について学年別にみると、どちらも『そう思う』が『そう思わない』を上回っています。

世帯分類と生活困難度別にみると、「ふたり親・困窮層」は『そう思わない』が『そう思う』を上回り、「ひとり親・周辺層」は『そう思う』と『そう思わない』が同じ割合となっていますが、そのほかは『そう思う』が『そう思わない』を上回っています。

		合計	とても思う	思う	あまり思わない	思わない	無回答
学年	全体	1,814	23.0	31.7	26.4	18.0	0.9
	小学5年生	937	26.3	29.3	24.8	18.5	1.2
	中学2年生	877	19.6	34.2	28.2	17.4	0.6
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	100	17.0	30.0	32.0	20.0	1.0
	周辺層	165	28.5	33.9	22.4	15.2	0.0
	一般層	595	25.0	35.3	25.0	13.8	0.8
	【ひとり親】困窮層	65	21.5	29.2	23.1	24.6	1.5
	周辺層	47	25.5	23.4	23.4	25.5	2.1
	一般層	79	19.0	35.4	26.6	19.0	0.0

●保護者向けアンケート

①お子さんとのかかわりについて

○お子さんとのかかわりの頻度

【A お子さんの勉強をみる】

お子さんの勉強をみる頻度を学年別にみると、「小学5年生」は「ほぼ毎日」が最も高く、「中学2年生」は「ほとんどない」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で「ほとんどない」が最も高くなっています。

		合計	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	ほとんどない	無回答
全体		1,102	19.1	12.1	17.2	12.9	35.3	3.4
学年	小学5年生	583	27.4	16.6	22.6	11.5	18.0	3.8
	中学2年生	486	9.3	7.0	11.1	14.6	55.6	2.5
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	22.9	8.6	16.2	13.3	39.0	0.0
	周辺層	172	17.4	11.6	16.3	15.1	39.5	0.0
	一般層	605	20.7	13.7	17.9	12.4	31.6	3.8
	【ひとり親】困窮層	69	14.5	14.5	21.7	10.1	37.7	1.4
	周辺層	48	12.5	8.3	22.9	6.3	50.0	0.0
	一般層	83	16.9	7.2	10.8	18.1	37.3	9.6

【B お子さんとからだを動かして遊ぶ（キャッチボールなど）】

お子さんとからだを動かして遊ぶ（キャッチボールなど）頻度を学年別にみると、どちらも「ほとんどない」が最も高くなっており、「小学5年生」が31.4%であるのに対して、「中学2年生」は63.4%と32.0ポイント上回っています。

世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で「ほとんどない」が最も高くなっており、どちらの世帯分類も「周辺層」、「一般層」に比べて「困窮層」は「ほとんどない」の割合が上回っています。

		合計	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	ほとんどない	無回答
全体		1,102	1.8	5.9	19.1	23.8	46.1	3.4
学年	小学5年生	583	2.7	7.7	26.6	27.8	31.4	3.8
	中学2年生	486	0.6	4.1	10.1	19.3	63.4	2.5
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	3.8	3.8	16.2	21.0	55.2	0.0
	周辺層	172	1.7	9.3	19.2	26.2	43.0	0.6
	一般層	605	2.0	5.5	20.8	24.3	43.6	3.8
	【ひとり親】困窮層	69	0.0	5.8	14.5	18.8	59.4	1.4
	周辺層	48	0.0	6.3	12.5	25.0	56.3	0.0
	一般層	83	1.2	6.0	20.5	21.7	42.2	8.4

【C お子さんと室内で一緒に遊ぶ（テレビゲーム、携帯ゲーム、トランプ、将棋など）】

お子さんと室内で一緒に遊ぶ（テレビゲーム、携帯ゲーム、トランプ、将棋など）頻度を学年別にみると、「小学5年生」は「週に1～2日」が最も高く、「中学2年生」は「ほとんどない」が最も高くなっています。また、「ほぼ毎日」から「週に1～2日」は「小学5年生」が「中学2年生」を上回っていますが、「月に1～2日」と「ほとんどない」は「中学2年生」が「小学5年生」を上回っています。

世帯分類と生活困難度別にみると、「ふたり親・一般層」は「週に1～2日」が最も高く、そのほかは「ほとんどない」が最も高くなっています。また、「ふたり親」では生活困難度が上がるにつれて、「ほとんどない」の割合が上昇しています。

		合計	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	ほとんどない	無回答
全体		1,102	6.8	8.1	26.1	25.5	29.8	3.7
学年	小学5年生	583	8.4	11.0	35.3	25.0	16.0	4.3
	中学2年生	486	5.1	4.9	14.8	26.3	46.3	2.5
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	7.6	7.6	23.8	28.6	32.4	0.0
	周辺層	172	8.1	7.0	25.6	26.7	31.4	1.2
	一般層	605	6.8	8.6	28.4	26.6	25.6	4.0
	【ひとり親】困窮層	69	4.3	7.2	27.5	20.3	39.1	1.4
	周辺層	48	6.3	2.1	16.7	29.2	45.8	0.0
	一般層	83	6.0	12.0	21.7	15.7	34.9	9.6

【D お子さんと学校の話をする】

お子さんと学校の話をする頻度を学年別にみると、どちらも「ほぼ毎日」が最も高くなっており、「小学5年生」が67.6%であるのに対して、「中学2年生」は60.3%と7.3ポイント下回っています。

世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

		合計	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	ほとんどない	無回答
全体		1,102	63.2	17.5	11.2	3.2	1.6	3.3
学年	小学5年生	583	67.6	17.3	9.1	1.9	0.5	3.6
	中学2年生	486	60.3	18.1	13.0	3.9	2.5	2.3
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	71.4	12.4	8.6	3.8	3.8	0.0
	周辺層	172	61.0	20.3	12.8	2.9	2.9	0.0
	一般層	605	64.5	18.0	10.2	2.5	1.0	3.8
	【ひとり親】困窮層	69	59.4	17.4	15.9	4.3	1.4	1.4
	周辺層	48	66.7	14.6	12.5	6.3	0.0	0.0
	一般層	83	54.2	15.7	15.7	4.8	1.2	8.4

【E お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする】

お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする頻度を学年別にみると、どちらも「週に1～2日」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、「ふたり親・一般層」と「ひとり親・周辺層」は「週に1～2日」が最も高く、そのほかは「ほとんどない」が最も高くなっています。また、「ふたり親」では生活困難度が上がるにつれて、「週に1～2日」の割合が低下し、「ひとり親」では生活困難度が上がるにつれて、「ほとんどない」の割合が上昇しています。

		合計	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	ほとんどない	無回答
全体		1,102	12.1	16.4	25.7	19.8	22.4	3.6
学年	小学5年生	583	13.9	17.2	24.2	19.9	21.1	3.8
	中学2年生	486	10.3	16.3	28.0	19.5	23.0	2.9
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	14.3	15.2	23.8	19.0	27.6	0.0
	周辺層	172	9.9	9.9	24.4	26.7	28.5	0.6
	一般層	605	12.7	18.5	27.8	18.2	18.7	4.1
	【ひとり親】困窮層	69	11.6	21.7	18.8	14.5	31.9	1.4
	周辺層	48	12.5	12.5	27.1	22.9	25.0	0.0
	一般層	83	10.8	14.5	21.7	19.3	24.1	9.6

【F お子さんとテレビ番組（ニュースを除く）の話をする】

お子さんとテレビ番組（ニュースを除く）の話をする頻度を学年別にみると、どちらも「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、「ひとり親」の「周辺層」と「一般層」は「週に1～2日」が最も高く、そのほかは「ほぼ毎日」が最も高くなっています。また、「ひとり親」では生活困難度が上がるにつれて、「ほぼ毎日」の割合が上昇しています。

		合計	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	ほとんどない	無回答
全体		1,102	31.8	19.9	24.7	8.3	11.7	3.7
学年	小学5年生	583	34.3	19.7	26.1	5.8	10.1	3.9
	中学2年生	486	29.6	20.6	22.8	10.9	13.2	2.9
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	40.0	16.2	21.0	9.5	13.3	0.0
	周辺層	172	30.8	18.0	24.4	12.2	14.5	0.0
	一般層	605	31.9	21.8	25.3	6.6	9.9	4.5
	【ひとり親】困窮層	69	33.3	11.6	21.7	13.0	18.8	1.4
	周辺層	48	29.2	22.9	31.3	8.3	6.3	2.1
	一般層	83	25.3	19.3	26.5	7.2	13.3	8.4

【G お子さんと一緒に料理をする】

お子さんと一緒に料理をする頻度を学年別にみると、「小学5年生」は「月に1～2日」が最も高く、「中学2年生」は「ほとんどない」が最も高くなっています。また、「ほぼ毎日」から「月に1～2日」は「小学5年生」が「中学2年生」を上回っていますが、「ほとんどない」は「中学2年生」が「小学5年生」を上回っています。

世帯分類と生活困難度別にみると、「ふたり親」の「困窮層」と「一般層」、「ひとり親・周辺層」は「月に1～2日」が最も高く、そのほかは「ほとんどない」が最も高くなっています。

		合計	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	ほとんどない	無回答
全体		1,102	1.6	4.0	17.0	37.5	36.5	3.4
学年	小学5年生	583	1.7	4.1	21.1	40.0	29.2	3.9
	中学2年生	486	1.4	3.7	12.6	35.2	44.9	2.3
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	2.9	5.7	21.9	36.2	33.3	0.0
	周辺層	172	1.2	4.1	20.9	36.6	37.2	0.0
	一般層	605	1.3	3.3	16.2	38.8	36.4	4.0
	【ひとり親】困窮層	69	4.3	2.9	14.5	36.2	40.6	1.4
	周辺層	48	2.1	6.3	14.6	39.6	35.4	2.1
	一般層	83	1.2	4.8	12.0	33.7	39.8	8.4

【H お子さんと一緒に外出をする】

お子さんと一緒に外出をする頻度を学年別にみると、どちらも「週に1～2日」が最も高くなっています。また、「ほぼ毎日」から「週に1～2日」は「小学5年生」が「中学2年生」を上回っていますが、「月に1～2日」と「ほとんどない」は「中学2年生」が「小学5年生」を上回っています。

世帯分類と生活困難度別にみると、全ての世帯分類と生活困難度で「週に1～2日」が最も高くなっています。

		合計	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	月に1～2日	ほとんどない	無回答
全体		1,102	7.2	14.2	48.7	22.8	3.7	3.4
学年	小学5年生	583	10.1	16.5	50.9	16.8	1.9	3.8
	中学2年生	486	3.9	12.1	46.5	29.6	5.3	2.5
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	7.6	16.2	47.6	22.9	5.7	0.0
	周辺層	172	8.1	17.4	40.7	26.2	7.6	0.0
	一般層	605	6.6	11.7	52.7	23.6	1.3	4.0
	【ひとり親】困窮層	69	14.5	23.2	39.1	10.1	11.6	1.4
	周辺層	48	8.3	8.3	50.0	27.1	6.3	0.0
	一般層	83	3.6	18.1	47.0	19.3	3.6	8.4

○お子さんとの体験

【A 海水浴、山登り、ハイキングに行く】

海水浴、山登り、ハイキングに行く体験を学年別にみると、「小学5年生」は「ある」が最も高く、「中学2年生」は「ない／その他の理由で」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、「ふたり親」の「周辺層」と「一般層」は「ある」が最も高く、「ひとり親・周辺層」は「ない／その他の理由で」、「ひとり親・一般層」は「ない／時間的な理由で」、どちらの世帯分類も「困窮層」は「ない／金銭的な理由で」が最も高くなっています。また、「ひとり親」では生活困難度が上がるにつれて、「ある」の割合が低下し、どちらの世帯分類も生活困難度が上がるにつれて、「ない／金銭的な理由で」の割合が上昇しています。

		合計	ある	ない			無回答
				金銭的な理由で	時間的な理由で	その他の理由で	
全体		1,102	34.6	8.4	24.1	28.8	4.1
学年	小学5年生	583	39.8	7.2	22.0	26.6	4.5
	中学2年生	486	28.4	9.5	27.4	31.7	3.1
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	21.0	37.1	22.9	16.2	2.9
	周辺層	172	39.5	12.2	21.5	25.0	1.7
	一般層	605	38.7	0.0	24.5	32.9	4.0
	【ひとり親】困窮層	69	21.7	40.6	24.6	11.6	1.4
	周辺層	48	27.1	8.3	20.8	41.7	2.1
	一般層	83	30.1	0.0	32.5	27.7	9.6

【B キャンプ、バーベキューに行く】

キャンプ、バーベキューに行く体験を学年別にみると、「小学5年生」では「ある」が最も高く、「中学2年生」では「ない／その他の理由で」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、どちらの世帯分類も「困窮層」は「ない／金銭的な理由で」が最も高く、「ひとり親・周辺層」は「ない／その他の理由で」が最も高くなっており、そのほかは「ある」が最も高くなっています。また、どちらの世帯分類も生活困難度が上がるにつれて「ある」の割合が低下し、「ない／金銭的な理由で」の割合が上昇しています。

		合計	ある	ない			無回答
				金銭的な理由で	時間的な理由で	その他の理由で	
全体		1,102	35.7	9.4	17.9	33.0	4.0
学年	小学5年生	583	42.5	8.6	14.8	29.7	4.5
	中学2年生	486	28.6	9.9	22.4	36.0	3.1
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	26.7	35.2	14.3	22.9	1.0
	周辺層	172	33.7	15.7	18.0	30.2	2.3
	一般層	605	41.3	0.5	17.0	37.2	4.0
	【ひとり親】困窮層	69	17.4	43.5	24.6	13.0	1.4
	周辺層	48	29.2	10.4	12.5	45.8	2.1
	一般層	83	31.3	1.2	28.9	28.9	9.6

【C 家族旅行に行く】

家族旅行に行く体験を学年別にみると、どちらも「ある」が最も高くなっています。世帯分類と生活困難度別にみると、どちらの世帯分類も「困窮層」は「ない／金銭的な理由で」が最も高く、そのほかは「ある」が最も高くなっています。また、どちらの世帯分類も生活困難度が上がるにつれて、「ある」の割合が低下し、「ない／金銭的な理由で」の割合が上昇しています。

		合計	ある	ない			無回答
				金銭的な理由で	時間的な理由で	その他の理由で	
学年	全体	1,102	60.3	16.8	12.0	7.3	3.6
	小学5年生	583	65.7	14.9	9.9	5.5	3.9
	中学2年生	486	55.6	17.9	14.8	8.8	2.9
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	34.3	56.2	7.6	1.9	0.0
	周辺層	172	53.5	28.5	11.0	5.2	1.7
	一般層	605	72.4	2.8	13.4	7.6	3.8
	【ひとり親】困窮層	69	27.5	59.4	5.8	5.8	1.4
	周辺層	48	43.8	22.9	12.5	20.8	0.0
	一般層	83	61.4	7.2	14.5	7.2	9.6

【D 遊園地やテーマパークに行く】

遊園地やテーマパークに行く体験を学年別にみると、どちらも「ある」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、どちらの世帯分類も「困窮層」は「ない／金銭的な理由で」が最も高く、そのほかは「ある」が最も高くなっています。また、どちらの世帯分類も生活困難度が上がるにつれて「ある」の割合が低下し、「ない／金銭的な理由で」の割合が上昇しています。

		合計	ある	ない			無回答
				金銭的な理由で	時間的な理由で	その他の理由で	
学年	全体	1,102	55.2	13.4	13.9	13.2	4.3
	小学5年生	583	62.3	12.0	9.8	11.1	4.8
	中学2年生	486	47.5	14.6	19.1	15.4	3.3
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	32.4	51.4	9.5	5.7	1.0
	周辺層	172	51.7	22.1	10.5	12.8	2.9
	一般層	605	63.3	1.5	16.5	14.5	4.1
	【ひとり親】困窮層	69	29.0	55.1	8.7	5.8	1.4
	周辺層	48	50.0	10.4	12.5	25.0	2.1
	一般層	83	62.7	2.4	14.5	10.8	9.6

【E スポーツ観戦に行く】

スポーツ観戦に行く体験を学年別にみると、どちらも「ない／その他の理由で」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、どちらの世帯分類も「困窮層」は「ない／金銭的な理由で」が最も高く、そのほかは「ない／その他の理由で」が最も高くなっています。また、どちらの世帯分類も生活困難度が上がるにつれて「ある」の割合が低下し、「ない／金銭的な理由で」の割合が上昇しています。

		合計	ある	ない			無回答
				金銭的な理由で	時間的な理由で	その他の理由で	
全体		1,102	20.6	11.6	13.9	49.7	4.2
学年	小学5年生	583	22.0	11.0	11.3	51.3	4.5
	中学2年生	486	19.5	11.5	17.1	48.4	3.5
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	8.6	44.8	13.3	31.4	1.9
	周辺層	172	18.6	20.9	13.4	45.3	1.7
	一般層	605	25.3	1.0	15.0	54.4	4.3
	【ひとり親】困窮層	69	8.7	47.8	11.6	30.4	1.4
	周辺層	48	12.5	10.4	10.4	64.6	2.1
	一般層	83	19.3	1.2	12.0	57.8	9.6

【F 博物館、水族館、美術館に行く】

博物館、水族館、美術館に行く体験を学年別にみると、どちらも「ある」が最も高くなっています。

世帯分類と生活困難度別にみると、「ひとり親・困窮層」は「ない／金銭的な理由で」、「ひとり親・周辺層」は「ない／その他の理由で」が最も高くなっており、そのほかは「ある」が最も高くなっています。また、「ひとり親」では生活困難度が上がるにつれて「ある」の割合が低下し、どちらの世帯分類も生活困難度が上がるにつれて「ない／金銭的な理由で」の割合が上昇しています。

		合計	ある	ない			無回答
				金銭的な理由で	時間的な理由で	その他の理由で	
全体		1,102	46.6	9.3	14.6	25.5	4.1
学年	小学5年生	583	54.4	8.1	12.7	20.4	4.5
	中学2年生	486	37.9	9.9	17.3	31.7	3.3
世帯分類×生活困難度	【ふたり親】困窮層	105	41.0	39.0	9.5	8.6	1.9
	周辺層	172	39.0	15.7	17.4	26.2	1.7
	一般層	605	52.9	0.0	15.2	27.8	4.1
	【ひとり親】困窮層	69	30.4	42.0	11.6	14.5	1.4
	周辺層	48	37.5	8.3	8.3	43.8	2.1
	一般層	83	50.6	0.0	18.1	21.7	9.6

（３）こども・若者の意見聴取調査

こども・若者が望む環境やサービスを把握するため、夢や悩みのこと、ふだんの生活や学校のことをテーマに意見聴取を行いました。

■中学生ワークショップ

○調査対象：那須塩原市の中学校などに通学している中学生

○調査日程：令和6年6月30日

○調査方法：ワークショップ

○参加人数：10名

○テーマ：ウェルビーイングダイアログカード(※)という質問カードを使い、幸せについて考え、那須塩原市が「どんなまちにしたい？なってほしいか？」を考えてもらった。

※トランプ型対話カードで、裏面には52枚それぞれに幸福度との関連が確認されている内容の問いが書かれている。

■こども食堂対面ヒアリング

○調査対象：こども食堂に参加している小学生・中学生

○調査期間：令和6年6月30日

○調査方法：ファシリテーターがテーマを投げかけ、意見を対面で聞き取る。

○参加人数：15名

○テーマ：①「いま一番やりたいこと」、②「神様が願いを一つだけかなえてくれるとしたら？」

■放課後児童クラブ対面ヒアリング

○調査対象：放課後児童クラブに参加している小学生

○調査期間：令和6年7月14日

○調査方法：対面ヒアリング（少人数）で、困っていることやふだん感じていることを聞き取る。

○参加人数：11名

■ホームページでの意見募集

○調査対象：市内在住・在学・在勤する小学生から29歳までのこども・若者

○調査期間：令和6年6月3日～6月30日

○調査内容：本人や周りの人が家庭、学校、地域の中で「困っていること」「もっとこうなると良いな」と感じていることについてホームページで意見を募集。

○回答数：24件（小学生1、中学生6、高校生10、短大・大学・専門学校生5、その他2）

<参加者の主な意見>

- ・施設も大切だけど、今そこに住んでいる人たちの気持ちも聞いて、住民たちがしたいことをその街に生かせばよいと思う。
- ・住んでいて幸せだなんて思うのは人との関わりだと思うので関わる機会があること、例えば話合いの場をつくるのが大事。
- ・自然を大切に、いろんな人が笑顔で住めること。
- ・もっと遊べる施設が増えてほしい。

- ・ イベントを開いてアンケートを取り、改善点をたくさん集めるとよい。
- ・ 外や室内でいっぱい遊びたい。
- ・ 友だちと遊びたい。
- ・ ご飯を食べたい。
- ・ 昼寝がしたい。
- ・ お金がほしい。
- ・ 高級なご飯を思う存分食べたい。
- ・ 100点をとりたい。
- ・ 夢を叶えられる力がほしい。
- ・ 室内での遊び場がほしい。
- ・ 公園の遊具が少ない。
- ・ ゲームセンターなど遊ぶ場所をなくさないでほしい。
- ・ 宿題を減らしてほしい。
- ・ 勉強できる場所を増やしてほしい。
- ・ 地域の人と交流できる場所をつくってほしい。
- ・ 病院や夜営業している店が少ない。
- ・ 校則を見直してほしい（髪型や携帯電話の使い方など含む）。
- ・ 掃除は清掃員を雇ってしてもらい、掃除の仕方は授業で学べばよい。
- ・ 道路が狭く、自転車通学が危険。
- ・ 歩道が少ない。
- ・ 進学で地元を離れた若者が、また戻ってきたいと感じられること、栃木県内での進学・就職を応援するプログラムなどがあつたらいい。